

1 議 事 日 程

[令和2年太宰府市議会 決算特別委員会]

令和2年9月14日

午前 10 時 00 分

於 全員協議会室

- 日程第1 認定第1号 令和元年度太宰府市一般会計歳入歳出決算認定について
- 日程第2 認定第2号 令和元年度太宰府市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第3 認定第3号 令和元年度太宰府市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第4 認定第4号 令和元年度太宰府市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第5 認定第5号 令和元年度太宰府市住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第6 認定第6号 令和元年度太宰府市水道事業会計剰余金の処分及び決算認定について
- 日程第7 認定第7号 令和元年度太宰府市下水道事業会計剰余金の処分及び決算認定について

2 出席委員は次のとおりである（18名）

委員長	門田直樹	議員	副委員長	神武綾	議員
委員	柳原莊一郎	議員	委員	宮原伸一	議員
〃	船越隆之	議員	〃	徳永洋介	議員
〃	笠利毅	議員	〃	堺剛	議員
〃	入江寿	議員	〃	木村彰人	議員
〃	小畠真由美	議員	〃	上疆	議員
〃	原田久美子	議員	〃	長谷川公成	議員
〃	藤井雅之	議員	〃	橋本健	議員
〃	村山弘行	議員	〃	陶山良尚	議員

3 欠席委員は次のとおりである

なし

4 太宰府市議会委員会条例第18条により説明のため出席した者の職氏名（44名）

市長	楠田大蔵	副市長	清水圭輔
教育長	樋田京子	総務部長	山浦剛志
総務部理事	五味俊太郎	市民生活部長	濱本泰裕
都市整備部長	高原清	観光経済部長 兼国際・交流課長	吉開恭一
観光経済部理事 (V字回復担当)	東谷正文	健康福祉部長	友田浩
健康福祉部理事 兼高齢者支援課長 兼包括支援センター所長	田中縁	教育部長	菊武良一
教育部理事	堀浩二	総務課長併 選挙管理委員会書記長	川谷豊

経営企画課長	佐藤政吾	文書情報課長	山口辰男
管財課長	柴田義則	防災安全課長	白石忠
地域コミュニティ課長	齋藤実貴男	市民課長	池田俊広
税務課長	森木清二	納税課長	大谷賢治
環境課長	中島康秀	人権政策課長兼 人権センター所長	行武佐江
国保年金課長	高原寿子	福祉課長	井本正彦
生活支援課長	藤井泰人	介護保険課長	立石泰隆
保育児童課長	大石敬介	ごじょう保育所長	寺原貴美栄
元気づくり課長	安西美香	元気づくり課 子育て支援センター所長	白田美香
都市計画課長	竹崎雄一郎	建設課長	中山和彦
建設課用地担当課長兼 県事業整備担当課長	伊藤剛	観光推進課長兼 地域活性化複合施設大宰府館長	池田哲也
産業振興課長併 農業委員会事務局長	伊藤健一	社会教育課長	木村幸代志
学校教育課長	鳥飼太	文化財課長	友添浩一
文化学習課長	花田敏浩	スポーツ課長	轟貴之
監査委員事務局長	木村昌春	会計課長	小島俊治

5 職務のため委員会に出席した事務局職員の職氏名（5名）

議会事務局長	阿部宏亮	議事課長	花田善祐
書記	斉藤正弘	書記	岡本和大
書記	平田良富		

再開 午前10時00分

~~~~~ ○ ~~~~~

○委員長（門田直樹委員） 皆さん、おはようございます。

ただいまから休会中の決算特別委員会を再開します。

審査に入ります前に、各委員からの質問及び執行部からの回答や説明につきましては、委員会の効率よい運営のため、簡潔明瞭をお願いします。

また、忘れたといいますか、後から戻っていいですかというふうなことが例年あるんですが、今回執行部の方が移動されますので、なかなか元に戻せない状況がありますので、その点に質問に関しては最後のほうの総括の部分でお願いします。

なお、審査に当たりましては、事務報告書、施策評価、審査意見書、決算審査資料等を参照の上、審査をお願いします。

直ちに審査に入ります。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第1 認定第1号 令和元年度太宰府市一般会計歳入歳出決算認定について

○委員長（門田直樹委員） 日程第1、認定第1号「令和元年度太宰府市一般会計歳入歳出決算認定について」を議題といたします。

お諮りします。

審査の都合上、事項別明細書の歳出から行いたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 異議なしと認めます。

審査に入ります。

決算書86ページの議会費から入ります。

その前に、申し訳ありません。市長からお話があるということで。

市長。

○市長（楠田大蔵） すみません、水を差すような話になりまして。

決算認定の審議、よろしく願いいたします。

せっかくの機会ですので、早めに皆様にお伝えをさせていただこうと思ひまして、今回お時間をいただいております。

太宰府市と西日本鉄道株式会社との包括連携協定の締結式についてということでもあります。本来、9月7日に締結予定でありましたけれども、台風のために延期となりまして、9月16日、あさつての11時より市役所で締結式を執り行うことにいたしております。この決算委員会の予備日ということもありまして、事前に議長、委員長にはご相談をさせていただきましたが、この日を使わせていただければと思っております。

内容といたしましては、新型コロナウイルスの影響もありまして、本市、また西鉄さんも含

めて大変厳しい状況の中で、やはりこれまでの協力関係をさらに強めていきたいということで連携を、主に5項目でありますけれども、交通拠点の魅力向上及び沿線などの活性化に関する事項、また観光及び地域経済の振興に関する事項、公共交通の維持及び促進に関する事項、移住及び定住の促進に関する事項、その他相互の連携により行うべきものに関する事項ということで、新型コロナウイルス対策もともに行っていこうという内容になっております。

締結後は、まずだざいふペイも使える太宰府散策きっぷのさらなる充実を図って、経済V字回復に向けての協力を進めていきたいと思っておりますので、どうぞご理解、ご協力いただければと思っております。よろしく願いいたします。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） ありがとうございます。

それでは、86ページ、87ページ、議会費ですが、両ページについて質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、88、89ページ。見開きでいきましょうか。89ページ、質問はございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 次の90、91ページ。せめて目でいきましょうか。1目までについて質疑はございませんか、93ページまで。よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは続きまして、92ページからですね、2目の文書費。そして、95ページの3目法制費までに質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、同ページ、4目広報費、97ページまで、5目、6目、7目、ずっと行きましょう。100ページまで行きまして、8目、9目、10目。ちょっと長いので、取りあえずこのまず10目までですね。

橋本委員。

○委員（橋本 健委員） 101ページの一番上の上段のところの工事請負費というのがありますね。臨時工事と施設改修工事が9,925万円。これ、執行一覧をちょっと見て探してみたんですけども、分からなかったんで、どういう工事内容か教えてください。

○委員長（門田直樹委員） 管財課長。

○管財課長（柴田義則） お答えいたします。

事務報告書の79ページのほうにも記載しておりますが、工事請負費の主なものとしましては、庁舎の外部改修工事のほうになります。臨時工事でございますが、こちらは上下水道事業センターの2階の天井改修工事が主な大部分を占めております。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

○委員（橋本 健委員） 分かりました。

○委員長（門田直樹委員） それでは、10日までよろしいですか。

小島委員。

○委員（小島真由美委員） すみません、97ページよかったですかね。330新公会計支援業務の委託料なんですけれども、これは公会計に関する委託料はこれだけ入っているんですが、ここに対して、これ委託して終わるといふ話では全くない事業なんですけれども、職員の研修等はどうなふうにされているんですかね。

○委員長（門田直樹委員） 経営企画課長。

○経営企画課長（佐藤政吾） おはようございます。

新公会計支援業務委託料でございますが、こちらのほうは総務大臣の通知、平成27年の通知に基づきまして、統一的基準に基づく財務書類作成が全国の自治体に義務づけられているものでございます。4月の議会連絡会等で議員の皆様にはお知らせしているかと思うんですが、これにつきまして、職員の研修とかそういった体制は今現在取ってない状況でございます。せっかく貴重な資料にもなりますので、職員の研修ということも今後考えてまいりたいと思います。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） 平成27年からもう随分たち始めていて、これを活用して、これからきちんと財政改革をしていくために、国がこれ各全国的に始めたわけですよ。太宰府市だけ後れを取るわけにいかなくて、そもそも太宰府市には財政課というところがなかなか総務の中の一部でしかないということで、これもずっと問題として取り上げていたんですけども、せっかく五味さんがいらっしゃる間に、この新公会計の部分でのこれからいろいろな今までの旧体制の会計方法ではないところから大きく展開していく一番大事な今時期なので、これ職員の研修をしっかりとやらないと、全く使えない状況だったら意味がないわけですよ。委託料だけ毎年毎年こんだけかかっているわけですよ。だから、その辺の考え方については、これ課長に聞くというよりは、部長に一言ちょっと教えていただきたいんですが。

○委員長（門田直樹委員） 総務部長。

○総務部長（山浦剛志） おはようございます。

新公会計の分につきましては、これはただ単に複式簿記で表すというだけではなくて、セグメント分析等もできるようにということで、国のほうも導入をしているところでございます。出てきた結果につきまして、今小島委員言われましたように、全ての職員が内容を見てその意味が分かるというものでもない、今はないというのがありますので、少しでもそういったものを見れるような職員が増えるように、今後研修等は進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかにございせんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(門田直樹委員) それでは、104ページの1款10目までよろしいですね。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(門田直樹委員) それでは、同ページ、2項企画費、ずっとページ行かまして、資料要求等もあっておりますが、まず1目まで、111ページまで、1目までについて質疑はございませんか。

笠利委員。

○委員(笠利 毅委員) 1目ですよ。108ページ、109ページの節でいうと19節負担金補助及び交付金のところで、筑陽学園のことなんですけれども、野球部とサッカー部の全国大会出場祝い金のことでございますけれども、これは2019年3月に甲子園出場でクラウドファンディングをされるといったときの、これ協議会の資料だったと思うんですけれども、今回この第一弾としてクラウドファンディングでの応援を始めて、その後スポーツに限らず、全国に呼びかけたいという発言があったのかな。在り方を検討してこの先を考えていきたいという旨のことがあったと思うんですけれども、その後どのような形で話し合いが進んで、今後どのようにこうしたクラウドファンディングの手法を用いていくというふうになっているか、現時点での判断をお聞きしたいと思えます。

○委員長(門田直樹委員) 経営企画課長。

○経営企画課長(佐藤政吾) クラウドファンディングにつきましては、春、夏、それからサッカー、全て筑陽学園さんの分の春の甲子園、夏の甲子園、冬のサッカー大会でクラウドファンディングを実施いたしました。その後、クラウドファンディングは、コロナの関係等もありまして、ビューティフルハーモニー事業ということでクラウドファンディングを進めてまいりました。

すみません、ちょっと質問の意図からずれるかもしれませんが、一応クラウドファンディングを今このように経営企画課が中心になりまして進めおる状況でございます。これを関係部署、それから関係団体等がいろいろな形で参画できるような形、そういったものを検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○委員長(門田直樹委員) 笠利委員。

○委員(笠利 毅委員) 分かりました。検討はして、いろいろ広げていきたいということだと思いますけれども、あとこれに関しては、もう一つ、学校であるとかそういったスポーツ応援という意味合いもあろうかと思うので、そっちについてはそこの教育費のほうで改めてお聞きしたいと思います。ありがとうございます。

○委員長(門田直樹委員) よろしいですね。

1目についてはよろしいでしょうか。

原田委員。

○委員（原田久美子委員） 109ページのシティプロモーションツール作成委託料についてちょっと質問させていただきます。

この委託は随意契約になっていますけれども、いつ頃に契約を行われたのか教えてください。

○委員長（門田直樹委員） 経営企画課長。

○経営企画課長（佐藤政吾） シティプロモーションツール作成委託料についてでございます。こちら、実を言うと2つの項目に分かれておりまして、1つが太宰府市PR横断幕製作業務委託、それからもう一つが、おとものタビット着ぐるみ製作委託でございます。

太宰府市PR横断幕製作業務委託は49万5,000円、工期といたしましては、令和元年12月11日から令和元年12月26日までの工期でございました。

もう一つ、おとものタビット着ぐるみ製作につきましては81万1,800円、工期といたしましては令和2年1月22日から令和2年2月21日までの業務委託でございました。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 原田委員。

○委員（原田久美子委員） その委託の前に、こんなふうには3体のキャラクターをつくるとかというの、もう考えられていたと思いますけれども、議会に報告があったのが、1月15日に経営企画課のほうから説明がありました。3体をつくるという随意契約が1月22日からと言われましてけれども、その前に契約しないとできないんじゃないかなと思いますけれども。

○委員長（門田直樹委員） 経営企画課長。

○経営企画課長（佐藤政吾） すみません。着ぐるみの製作が1月22日からの工期でございますが、一応その前にデザインを決める部分の委託を行っております。太宰府市公認キャラクター及びロゴマーク作成委託ということでキャラクターのデザインが決まりまして、おとものタビットの着ぐるみ製作を発注いたしております。中西先生の講演会でまず利用することを目的に、早急にデザインの委託、それから着ぐるみ自体の作成というものをしている実情でございます。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 原田委員。

○委員（原田久美子委員） 今課長がおっしゃったように、講演会のためのこの着ぐるみなような気がします。その講演会も中止になったわけですが、今後この3体についてはどういうふうなものに活用されるのか、そしてまた、せっかく作ったものについてどういうふうな活用をされていくのかをちょっと説明してください。

○委員長（門田直樹委員） 市長。

○市長（楠田大蔵） ありがとうございます。3体は、特に令和のご縁をいただいた本市にとって、PRする上で有効に活用していきたいと思っておりますが、先ほど申しましたように今年

の2月、中西先生をお招きしてのイベントの際、せっかくの機会ですから着ぐるみも使ってPRと思っておりましたが、残念ながら中止となりました。

その後も、例えば最近でもプレミアム商品券のポスターなどにもこの図柄を使っていただいたり、そして間もなく放映されると思いますけれども、トヨタカローラ福岡さんのCMにタビット、この着ぐるみが使われて、これから放映されていきます。

やはりこうした分かりやすいキャラクターがあって、着ぐるみなどもあることによって、先方からお声かけをいただいてこうしたPRができていくわけでありますから、そのCMの内容も太宰府の様々な名所旧跡を回っていただくような内容になっておりますので、このタビットなりこの3体を使ってさらに、コロナ時代でありますけれども、PRが図れるように頑張っていきたいと思っております。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかにございませんか。

木村委員。

○委員（木村彰人委員） 決算書109ページ、細目990総務企画推進費の中の13節ふるさと納税関連業務委託費の1億7,583万円についてお伺いします。

このふるさと納税関連業務委託料の中には返礼品代を含むわけですが、令和元年度の返礼品として新たに加わったものとか商品開発でされたものについては、何かございますでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 総務部理事。

○総務部理事（五味俊太郎） 新たに加わったものということですが、一応昨年の取組としては、ふるさと納税、最初の筑陽学園もそうですけれども、モニュメント作りから始まってかなりアピールをしてきた中で、昨年9月には大商談会という形でいろいろな事業者さん、市内に限らずですけれども、特に市内の方中心に、ぜひ出品していただきたいということを市長が先頭に立って呼びかけていただいて、いろいろなものが増えていると。

個別具体的にあれ、これというのはなかなか今この場に手元にないですけれども、大きく県主催、県内共通で出てくるようなラーメン、肉、鍋、めんたいこに加えて、あとやはり市内の事業者さんという中で、まさに令和の中でアピールされていた珮後香さん、個別名はちょっと事業者名は控えますけれども、珮後香ですとか、最近で申し上げれば、障がい者の画家さんの作ったスマホケースですとか、いろいろなものが随時追加されている状況です。

○委員長（門田直樹委員） 木村委員。

○委員（木村彰人委員） 新しい返礼品が追加されているのは分かりました。

それとは別に、審議会的なものをつくって新たなものを開発するというような動きもあったような気がするんですけども、そこら辺から本市独自のものを生み出したというものはありますか。

○委員長（門田直樹委員） 総務部理事。

○総務部理事（五味俊太郎） 委員がおっしゃっていただいたのは、産業推進協議会のことということでしょうか。

○委員（木村彰人委員） はい。

○総務部理事（五味俊太郎） そちらは私の所管でないので、補足は部長からお願いしたいと思いますが、昨年立ち上げていただいて、これからスタートというところですので、そこから出てきたかどうかという意味では、今そこから直接出てきた商品があるわけではないです。

一方で、ふるさと納税があるからということいろいろ相談いただいているものもありますし、先ほど申し上げたタビット君をつけて出すという相談もいただいています。実際にまだ出てきてないというは事実ですけれども、そういったことで取組は進めているところです。

○委員長（門田直樹委員） 市長。

○市長（楠田大蔵） 補足いたします。

令和2年ということでは、やはり今年は新型コロナウイルスの影響がもう3月頃から出てきておまして、この対策のためにまずはスピーディーに生かしていこうということで、新型コロナウイルス対策のふるさとチョイスさんのキャンペーンと協力しながら、やはり永利牛乳さんの緊急の呼びかけであるとか、クラウドファンディング自体を新型コロナウイルス対策向けに呼びかけをすることによって、双方とも500万円以上の売上げともなっておりますので、まずは今年は新型コロナウイルス対策向けの新商品ということが主に今まではなっております。

産業推進協議会のほうは、私も期待をしておりますけれども、こちら自体も新型コロナウイルスの関係もあって、会議自体がなかなかメンバーが集まらなかったということもありまして、まだ具体的な形になっておりませんが、9月の後半に、今年もオンラインで大商談会を行う予定でありますので、ここでしっかりとまた呼びかけをさせていただいて、何とか年末商戦に間に合うような商品のラインナップを行っていきたいと考えております。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） 関連してお聞きいたします。

お金の面だけでご質問させていただきますが、単純に平成30年度が4,000万円ほど委託料がかかっていて、今回が1億7,000万円ほどということなんですね。

この真水の部分で、どれだけ市としてこのふるさと納税の現状では収入になっているんでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 経営企画課長。

○経営企画課長（佐藤政吾） 実際にふるさと太宰府応援寄附に関しまして、歳入額、それから歳出額を引きますと、約1億600万円ほどのプラスにはなっております。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） ちょうど今、決算審査資料のほうで出していただいていたね。ちょっとこれを見ますと1億円ぐらい。

○市長（楠田大蔵） 資料11ページですね。決算審査資料11ページです。

○委員（小島真由美委員） 1億円残って、これは真水で1億円というところで、それからさらに住民税の控除額をこれ加味すると、いきいき情報センターの賃料がペイできたぐらいな感じなんですかね。

これ、あまりふるさと納税での収入を誇張すると、非常に誤解を招くところもあって、こういうふうな真水の部分で市としては見ていかないと、財政を知る上ではここ大事なポイントだと思うんですが、この辺どうお考えなんでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 市長。

○市長（楠田大蔵） おっしゃるように、やはり売上げの部分と委託料なり、本市の市民の方が他自治体でふるさと納税をされているという中で、全体の取り合いの中でプラスを出していくということもなかなか難しいと。例えばじゃあ、渋谷区が最近始められたということでありまして、出していくほうが数十億円か出ていたということで、最近これではいけないということで始められたということで、本市もそのまま増えていなければ、むしろ赤字になっていた可能性もありますので、そうした意味ではどんどん増やしていかなければいけませんし、本年も倍のペースで増えているということで、これをどんどん増やしていきたいということがまず1点あります。

加えまして、おっしゃるようにどれだけの利益になるかということ、これは厳しく見ていかなければいけないと思いますが、もう一点、やはり先ほど来申していますように、例えば永利牛乳さんにしても様々な給食の関係の業者さんにしても、そのことによって実際地元の事業者の方の商品が購入をされて、そして全国の方にPRをすることができると。そのリピーターの方も多くおられますので、そうした中で事業者の方も潤っていくということも、このふるさと納税の一つの利点でありますので、そうした意味でも地域の方が自社の商品を全国にPRする、新しい販路を開拓するという意味でも、ふるさと納税はプラス面があるということもしっかりと説明をしながらやっていきたいと思っております。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） 市長がおっしゃるとおりで、このふるさと納税については、一度平戸市からの元職員さんが講演がありましたね。あのときに本当におっしゃっていたとおりだと私も思っていて、太宰府市の産業がいろいろない中で、こういった小さい商店さんたちが自立をして、楽天などの通販の中で上位を占めるようなところまでの販路を拡大したと。自立したこういった商店さんたちが自立して、きちんと販路を拡大していけるというところの道筋をつくるための一つのツールとして捉えるのであって、今どうもふるさと納税でこれだけ入ってきたというようなPRのほうがちよっと大きい気がして、これをやり過ぎると、若干2億円もじゃあ入ってきているのかというようなことで、2億数千万円、市にじゃあ純利益が入ってきているのかというふうに誤解されやすいので、その辺は少し考えながらPRしなきゃいけないんじゃないかなと思いますので、戦略を少し立て直したほうがよろしいんじゃないかと思えます

が、その点いかがでしょう。

○委員長（門田直樹委員） 市長。

○市長（楠田大蔵） おっしゃるように、増額としては2億数千万円と言っておりますけれども、結果として今回の新型コロナウイルスに費やした昨年分は1億円という書き方もしておりますので、しっかりと実際の実益、実際の収入がどれぐらいかということも丁寧にご説明をしていきたいと思っておりますし、もちろん何度も申しますように、昨年からはじめた大商談会などで地元内外の業者の方を参集して、呼びかけをして、新しいそうした商品開発、販路開拓を呼びかけも昨年からはじめておりますので、こうしたことをもっと皆様に知っていただいて、それが結果としてどのような折れ線が出ているかということも丁寧にご説明をしていくように心がけていきたいと思っております。ありがとうございます。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかにございませんか。

笠利委員。

○委員（笠利 毅委員） 先ほどとは別の内容なんですけれども、この企画総務費の目のところが……。

○委員長（門田直樹委員） ページは。

○委員（笠利 毅委員） すみません。だから、104ページですね。昨年の令和の影響を一番よくも悪くも被ったところだと思うんですけれども、それで2つお尋ねしたいんですが、予算と変動があるところが結構あるんですけれども、まず109ページの需用費の印刷製本費が、14万円ぐらいだった予算が225万円ですか、これだけ変化した理由を。どこか協議会では説明があったかもしれないんですけれども、何に当たるのかというのが1つ。

もう一つは、今年予備費の支出といったものが総額としては分かるんですけれども、そのほとんどが予備費とか流用がほぼここに集中しているのので、この目にどれだけの予備費がつき込まれたか、あるいはどれぐらい流用されたとか、そういう数字があるのであれば、お聞きしておきたいと思っております。

○委員長（門田直樹委員） 経営企画課長。

○経営企画課長（佐藤政吾） 11節の印刷製本費でございますが、225万8,360円のうち、令和のクリアファイルの印刷代がほとんどでございます。こちらの金額が204万8,480円ということで、クリアファイルを作った部分が、ここが増えている状況でございます。

それから、申し訳ございません、予備費のうち企画部門が使った部分というのは、手元にご覧いただけますので、後ほど総括の際にご説明ということでよろしいでしょうか。

○委員（笠利 毅委員） はい、ありがとうございます。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかにございませんか。それでは、1目についてはよろしいですね。

（「なし」と呼ぶ者あり）

- 委員長（門田直樹委員） 110ページから115ページの2目、3目について質疑はありませんか。
（「なし」と呼ぶ者あり）
- 委員長（門田直樹委員） それでは、112ページ、4目男女共同参画推進費について質疑はありませんか。
（「なし」と呼ぶ者あり）
- 委員長（門田直樹委員） それでは、114ページから5目地域づくり推進費、117ページまでですか、質疑はございませんか。
木村委員。
- 委員（木村彰人委員） 決算書115ページ、審査資料が1ページです。細目の240コミュニティバス運営費、19節コミュニティバス運行補助金1億4,898万円についてお伺いします。
この審査資料としては、広報9月号の表2の右側に、今回平均乗車密度という数字を加えていただきました。ありがとうございます。これにより、さらに路線ごとの乗車状況がはっきり分かってくるというところで、厳しい路線が多々あるわけですが、これについてのご見解を伺いたいと思います。
- 委員長（門田直樹委員） 地域コミュニティ課長。
- 地域コミュニティ課長（齋藤実貴男） 確かに木村委員ご指摘のとおり、平均乗車密度、1便当たりの利用者数の平均ということでこちらのほうに出して、路線ごとにかなり明確な差が出ているというのは、私ども周知しております。
ですので、今後まほろば号につきましては、もちろんこのような平均乗車密度とか1便当たりの利用者数などの数値を参考に、例えばダイヤの改正とかそういうふうなことをある程度抜本的な、参考にやっていきたいと考えております。
以上です。
- 委員長（門田直樹委員） 木村委員。
- 委員（木村彰人委員） これは先日行われました一般質問での橋本議員の質問をデータで裏づける形になったと思うんですけども、ちなみにこれ、前回のお答えでは、このまほろば号、ドル箱と言われる路線、これ北谷周りとか内山路線は確かに1便当たりがすごく乗車人数があるんですけども、平均乗車密度で見るとほかの路線と変わらないと。恐らくある部分は乗車人数が非常に厳しい状況があるという路線で、これも路線ごとの検討が必要だと思われる中で、ちなみに今のまほろば号プラスのデマンド交通というお話も橋本議員のほうから提案がありました。去年担当課さんのほうが、西鉄の福岡市東区でデマンドバスの実証実験が行われているのを見聞に行かれたというふうに聞きました。これ、デマンド交通の実証実験ですね。これに対する担当課のご意見というんですか、これからのデマンド交通の可能性についてどのように報告が課内であったのか、お聞かせください。
- 委員長（門田直樹委員） 地域コミュニティ課長。
- 地域コミュニティ課長（齋藤実貴男） デマンド交通ですね。東区のほうに行かれたのが、のる

一とということで、AIを利用したデマンド交通になっています。実は私ども、福岡市の橋本駅、地下鉄の終点ですけども、橋本にも実は今年の6月になって導入されています。それについても西鉄のほうからいろいろ情報を仕入れております。ただし、今コロナ禍の関係で、なかなかちょっと利用者が今現在伸びてないような状況です。ただし、橋本につきましては、太宰府市と似たような点がありまして、やはり一般の住宅地ですかね、それとかあとは人口構成比とかもありますので、それを参考に今後調査をやっていきたいと考えております。ただし、やはり様々な収益と費用の関係とか、そのような点も十分考慮していかなければいけないということで考えております。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 木村委員。

○委員（木村彰人委員） 十分検討してください。

それと同じく、この審査資料の中で、ちょうど表の真ん中あたりに収支率というのがございますが、これを見てみると、やはり橋本議員の指摘どおり、10%台の路線が多々見られます。一般質問でも提案されたとおり、料金の見直しというのが非常に真剣に考えなきゃいけない状況をこの数字を見ると私も感じるんですけども、改めてこちらのほう、検討の方向性、どういうふうに検討していくかについてお答えいただければと思います。

○委員長（門田直樹委員） 市長。

○市長（楠田大蔵） 大変重要な、また難しい課題でありまして、率直に申して、導入時期、導入の際は百数十円でした。

（「180円です」と呼ぶ者あり）

○市長（楠田大蔵） 180円ですか。だったのを、いつしか100円に切り下げられたという中で、一旦もともとの値段があって、それを切り下げて、それをまた切り上げるとなると、なかなか市民の方のご理解も得にくい問題だろうと、過去の経緯もありますのでですね。

少ない利用者の方とはいえ、路線拡大をしてきた結果として、利用される方は少なからずおられるという中で、これを縮小していくということも、過去の経緯からしますと、やはり一旦広げたものをまた狭めるというのもなかなか難しい判断だと私自身思っております、どのような形で実行に移せるかということは、今担当の中で真剣に議論をしている最中ではありますが、いずれにしても大変な厳しい出費でもありますので、新型コロナウイルスの影響で大変来年度さらに厳しくなる中で、行政改革の一環の中で結論を出していきたいと思っております。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 今のコミュニティバス運営費の中の工事請負費、バス停留所関連工事なんですけれども、予算のときに100万円ついていまして、6基設置をするというお話だったんですが、吉松公民館前1か所の工事で止まっていると思うんですけども、ほかの5か所

については今どのような状況なのか教えてください。

○委員長（門田直樹委員） 地域コミュニティ課長。

○地域コミュニティ課長（齋藤実貴男） 実は、このバス停の関連工事なんですけれども、ダイヤ改正とちょっと見直しの関係で計上していたところなんです。ですので、今回決算で出ている部分につきましては、大佐野公民館前のバス停の移設を行っております。その工事費になります。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 予算のときには、そのようにダイヤ改正も含めて乗りやすいものということでのバス停の設置も考えているというお話だったんですけれども、今木村委員との議論の中で、またダイヤ改正を考えて、これからまた検討していくというふうなお話しされましたけれども、このまほろば号は、やっぱり負担金もそうです、補助金もそうですし、あと乗る方の要望だったりとか、地域的な問題とかやはりあると思いますので、その部分は十分認識されていると思うんですけれども、やはり早めに、ダイヤ改正しますって1年前もおっしゃっていたというところでの、このスピードを持って対応していくということをぜひ進めていただきたいと思います。

ちょっと私ごとですけれども、先日娘が夜、最終便に乗って帰ってきました、水城回りなんですけれども。1人しか乗ってないんですよ。やっぱり中高生、塾帰りとかでも利用されるので、そこら辺うまく乗れるような形で、ダイヤもそうですし、本数、ルートも考えていただきたいと思います。

さっき市長が、西鉄との包括連携もこれから進めていくというお話でしたけれども、やはり大野城市との境の位置にもありますので、そういうところも考えて進めていただきたいと思います。

○委員長（門田直樹委員） 地域コミュニティ課長。

○地域コミュニティ課長（齋藤実貴男） 確かに言われるとおりに、特に今の現状、利用者数とか路線ごとの収益率とかをいろいろ見ながら、早めに改正というか、ダイヤ改正なりをやりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

○副委員長（神武 綾委員） はい。

○委員長（門田直樹委員） それでは、116ページ、3項徴税费、1目、2目、121ページまでですね。3項について質疑はございませんか。

藤井委員。

○委員（藤井雅之委員） 119ページの過誤納付金還付金2,799万円についてお伺いしますが、これも、これすみません、審査資料を要求すればよかったですけれども、具体的に件数が何件な

のかと、仮に複数あるということでしたら、これ一番大きい金額は幾らぐらいあったのか、分かれば示してください。

○委員長（門田直樹委員） 税務課長。

○税務課長（森木清二） この支出の内訳につきましては、数が数百件ございます。一番大きい金額ですけれども、今のところ持ち合わせております資料ですと……。

○委員長（門田直樹委員） 藤井委員。

○委員（藤井雅之委員） ないようでしたら、後日の回答で構いませんので。もう進めていただいて結構です。

○委員長（門田直樹委員） いいですか。

○委員（藤井雅之委員） はい。

○委員長（門田直樹委員） 数字あたりは事前確認をよろしく願いいたします。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、120ページ、4項戸籍住民基本台帳費について、123ページまでですが、4項について質疑はありませんか。

小島委員。

○委員（小島真由美委員） 121ページの991住民基本台帳事務費で、マイナンバーカードの交付についてなんですけど、今回、当常任委員会にも今回の議会で上程された内容の審査もあったんですけど、このマイナンバーカードの交付をしやすくするような取組として、他市等では、これはスマートフォンでもできるということの案内とかはどういうふうにされているのかということとか、また市役所の中でも写真を撮っていただければすぐに交付ができるところまでいくわけなんですけど、それがまだ当市としては手つかずであるということ。このマイナンバーカードへのその辺の取組の考え方を教えてください。

○委員長（門田直樹委員） 市民課長。

○市民課長（池田俊広） ただいま市民課のほうでは、マイナンバーカードを毎日交付とかはしてるわけですけれども、今政府のほうではマイナポイントとか、それからこれから始まる保険証との結びつけとか、そういうことで非常にマイナンバーカードの交付が多くなっております。大体1日当たり70件から80件あたりの受け取りとかがあっております。現在、既に平成30年度を上回る、半年で1年分を上回る受け取りとかがあっております。市民の皆さん、今テレビとかでマイナポイントのコマーシャルとかがあっていきますから、非常にそれに関心を持たれて、マイナンバーをつくりたいということで窓口のほうにもたくさんいらっやっております。それにお応えするように、こちらも市民課としても、現在2人の専門的な主業務でマイナンバー業務を行う会計年度職員を雇用をしているところでございます。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） 今マイナンバーカードの交付率が17%とたしかお聞きしたような気がするんですけども、マイナポイントで結構これは大きなお金、大変助かる内容のポイントが

つくんですけれども、せつかくこのマイナポイントの国の事業とタイアップをしながら、市がもっと交付率を上げるような形で、何か分かりやすく、高齢者でも分かりやすい周知とか説明とかを繰り返すべきだと思っていて、そこに集中をしていかなければ、これは健康保険証ともひもづけがこれらなってきたりとか、様々マイナンバーカードでもいろいろな手続が済む形になってきて、もう少しここに集中しないと、マイナンバーカードを持っていない人のためにとかということを行っている場合じゃなくて、マイナンバーカードをどう市として進めていって、今回出てきているコンビニエンスストアでの交付に結びつけるかという展望を今、今回この決算を見ながらやらないといけないんですが、その辺の考え方はどうなんでしょうかね。

○委員長（門田直樹委員） 市民生活部長。

○市民生活部長（濱本泰裕） マイナンバーカードの普及、現在ほとんどの方がスマホを持ってあって、スマホで写真を撮影すればそのまま申請ができるというような状況がありますけれども、やはりそれでもなかなかできない方、先ほど小島委員言われましたように、写真を撮る必要ありますので、市役所に写真機を、これはマイナンバーカードが導入されたときからそういった動きというのは私どもも察知しております。ただ、現在のところ太宰府市では、その分について設置をするという予定は今のところございませんで、このマイナンバーカードの普及につきましては、今後も経営企画課とも十分協議をしながら、普及促進には努めていきたいというふうに思っております。内容についてはこれからも検討をしていきたいというふうに思っております。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですね。

よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、122ページ、5項選挙費、ずっと行きました129ページまでですね。5項選挙費につきまして質疑はございませんか。

長谷川委員。

○委員（長谷川公成委員） 選挙費なんですけれども、市長も答弁で言っていましたとおり、非常に投票率が減少傾向にありますので、例えば案として、期日前投票は市役所だけでなく、例えばですよ、地区公民館ですとか、何かそういうふうにしていかないと、高齢者も免許返納をして車も運転できないような状況が今から増えてくると思うんですね。高齢化率も上がってきますし、そこら辺を真剣に検討していかないと、どんどんどんどん下がっていくばかりだと思うんですけれども、そこら辺、庁舎内で何か検討はされていますか。

○委員長（門田直樹委員） 選挙管理委員会書記長。

○選挙管理委員会書記長（川谷 豊） 期日前投票の別会場の件につきましては、前々から数々ご指摘をいただいておりますので、委員会の中では検討はいたしておるところですが、まだオンラインなどちょっと支出がかなりかかりますもので、費用対効果のことも併せまして検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 長谷川委員。

○委員（長谷川公成委員） 本当、年々じゃないけれども、毎年するわけじゃないけれども、必ず下がっていきますから、真剣に考えていかないと、もう50%以下に今なっていますので、今後前向きな検討をして、やはり投票所の増加を、確かに経費もかかりますけれども、ぜひとも前向きな検討をお願いしたいと思います。これは要望ですので、答弁は結構です。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、128ページ、6項統計調査費、131ページまでですが、質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、同ページ、7項監査委員費、133ページまでですが、質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、132ページ、3款民生費、1項1目が137ページまでですね。1目について質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは136ページ、2目老人福祉費について、139ページまでですが、質疑はございませんか。

長谷川委員。

○委員（長谷川公成委員） 137ページの敬老会関係費ですね。年々敬老会も人数がどんどんどんどん増えていますけれども、今後この敬老会の在り方について、何か庁舎内で検討されていることがあれば教えてください。

○委員長（門田直樹委員） 高齢者支援課長。

○高齢者支援課長（田中 縁） 昨年来からも参加率がやや低いということで、決算委員会の中でもご意見はあったと思います。参加率の向上につきましては検討を要するところでもありますし、ただし会場の問題ですね。対象者はどんどん増えていく傾向ですので、会場の問題をどうするかというのが課題になっているところでもございます。

今年度につきましては、お知らせしましたとおり、このコロナの状況下の中で、全自治会、今回は敬老会を開催しないということになりました。この敬老会を開催しないという今年の状況が終わってみて、また自治会長様たちとも、今回開催の主体は自治会になりますので、自治会長様たちともそれがどういうふうに対象の高齢者の方たちに受け止められたのか、そのあたりも十分協議しつつ、今後の対応については検討していきたいというふうに思っております。

以上です。

○委員（長谷川公成委員） 分かりました。いいです。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかにございませんか。

木村委員。

○委員（木村彰人委員） 決算書の137ページ、審査資料が2ページです。細目が020老人福祉センター管理運営費の中の13節老人福祉センター指定管理料についてお伺いします。

審査資料としては2ページの資料なんですけれども、この資料の請求の目的としては、この老人福祉センターが市全体の高齢者の福祉に寄与するのではなく、一地域の狭い範囲の利用にとどまってしまっているんじゃないかと思って心配しております。資料としては直接それを裏づける資料ではなかったんですけれども、できる範囲の資料を載せていただきましてありがとうございます。

しかしながら、この老人福祉センターはすごく古い施設で、毎年毎年修繕費もかかっていますところで、公共施設の建て替え、複合化、再配置をこれから検討するに当たっても、施設の有効性とか存在意義を再検証する調査が必要ではないかと思つとる中で、これからこの調査、検証の取組についてどのようにお考えか、お伺いします。

○委員長（門田直樹委員） 高齢者支援課長。

○高齢者支援課長（田中 縁） 今回の決算審査資料につきましては、委員の求められている資料にちょっとなっていないかなと思っておりますので、そこに関しては資料が数字がございませんでしたので、こういう形で回答させていただいております。ご了承願います。

利用者のご意見、利用者のアンケートについては、折々で取っている部分はあるんですけれども、どういう目的で来られているかというよりも、何を楽しみに来られているかという、そういうアンケートの取り方はしております。今のところ、ご利用の目的がお風呂ですね。お風呂と、あと皆さんとお話をする、そういうところが主たる皆様の目的になっているような、利用者アンケートの結果というのは別途あるのはあるんですけれども、そこら辺を今後、施設の有効利用ということでは検討材料というふうにしていきたいというふうに思います。実際、今後またそういう調査はしていく必要はあるというふうに思っております。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 今の関連で、ここの施設利用でお風呂なんですけれども、今回のコロナの関係で閉鎖になって、お風呂が利用できないということで、市民の方からちょっと連絡があったんですけれども、その方は家にもお風呂がないということでここを利用されているというような状況だったんですよね。今課長がおっしゃった、何を楽しみにしているかというところで、お風呂とか、お話をしに来るというのはあると思うんですけれども、実際アンケートなり調査をすると、もうお風呂がないというような方もいらっしゃるんじゃないかなと思

ますので、そこら辺もちょっと調査も細かくしていただいて、今後建て替えとか改修していくときに、そのお風呂自体が必要なのかというところにも結びつけていただければいいかなというふうに思いますので、これは要望をお願いします。

○委員長（門田直樹委員） ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、138ページ、3目障がい者対策費、次のページまでですが、3目について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、140ページ、4目障がい者自立支援費、145ページまでですが、4目について質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、同ページ、5目援護関係費について質疑はありませんか。
小島委員。

○委員（小島真由美委員） 145ページ、033の障がい児通所支援給付関係費で、平成30年度からやはり利用者さんも増えているんですけども、この事業者自体はやはりまた増えているんでしょうか。現状で何か所あるんですかね。

○委員長（門田直樹委員） 福祉課長。

○福祉課長（井本正彦） ただいまの事業所の数でございます。市内でございますが、14か所でございます。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

それでは、5目援護関係費について質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、11時10分まで休憩します。

休憩 午前10時59分

~~~~~ ○ ~~~~~

再開 午前11時10分

○委員長（門田直樹委員） それでは、再開いたします。

それでは、144ページ、6目重度障がい者医療対策費から147ページの7目、8目後期高齢者医療費までについて質疑はございませんか。

橋本委員。

○委員（橋本 健委員） 147ページの060後期高齢者医療関係費についてお尋ねします。

19節ですかね、負担金、補助及び交付金の7億9,457万円、これは福岡県後期高齢者医療広域連合療養給付費負担金なんですけど、事務報告書の30ページの一番下のところに過去何年か分の数字が記載されておまして、平成30年から令和元年度に約1億円増えているわけですね、

前年比1億円。これから団塊の世代を迎えまして、2025年がピークになると思うんですが、近い将来に向けての、当然国からの支援もあると思いますけれども、太宰府市としてはどういふふうに関後これ財源をどうやって確保していくのか、見解をお聞かせいただければと思います。

○委員長（門田直樹委員） 国保年金課長。

○国保年金課長（高原寿子） 事務報告書の約1億円の増加の分についてまずご説明いたします。

この分につきましては、翌年度に精算をしている関係で、平成30年度から令和元年度に向けて1億円全て増額したわけではございません。平成30年度支出分も含めたところの数字になってまいりますので、年々の増加につきましては、大体3,000万円から4,000万円増えているような状況でございます。これはやはりおっしゃられましたとおり、人数が増えている関係でございます。この分に関しましては、広域で行っておりますので、そういった太宰府市もその広域の一団体としまして一緒に取組を行っていかないといけないというふうには考えております。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 橋本委員。

○委員（橋本 健委員） 広域でやっぱりこういった話も出てくると思うんですよね。本市としてはどういふふうに関考えていらっしゃるのか。

○委員長（門田直樹委員） 国保年金課長。

○国保年金課長（高原寿子） 保険料につきましても、本市で単独で決めるようなことができませんで、事務だけをしているような状況でございます。一応会議等はございますので、その中で本市として述べられるような意見は述べていきたいと思ひます。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 146ページ、9目国民年金費について質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、148ページ、10目人権政策費、151ページまでですが、10目について質疑はありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、150ページの11目人権センター費について質疑はありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、152ページですね、2項児童福祉費、1目、2目までですね、取りあえず。157ページまで、1目、2目について質疑はありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、156ページの3目教育・保育施設費、ページは161ページまでですね。3目について質疑はありませんか。

木村委員。

○委員（木村彰人委員） 決算書が159ページ、審査資料のほうが2ページです。細目は012病児保育関係費の13節病児保育事業委託料についてお伺いします。

まず1点目なんですけれども、これ審査資料のほう、2つの病児保育を受け入れている施設の受入れ状況をいただきました。まず最初に、この両施設の1日の受入れ定員というのは何人なんでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 保育児童課長。

○保育児童課長（大石敬介） 両施設4名ずつですので、合わせて8名になります。

○委員長（門田直樹委員） 木村委員。

○委員（木村彰人委員） ありがとうございます。両施設で4名ずつということですが、私ちょっと気になったのが、その定員をオーバーしている状況があるのかと思ってこの表をいただきましたが、1施設のみ、8月の中で1日だけ定員をオーバーしているわけなんですけれども、このときのこの施設の対応、対処というのはどのようになされたんでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 保育児童課長。

○保育児童課長（大石敬介） 当日お申込みがあったということで、急遽受入れをしたという報告を受けております。通常の4名にプラス1名ということで対応したという報告を受けております。

○委員長（門田直樹委員） 木村委員。

○委員（木村彰人委員） 多少の融通は利くということなんですね。

それで、この表を見ますと、ほぼほぼ両施設ともに定員を不足している状況は生じていないように見えるんですけれども、もしかしたら利用しづらくてとか、利用者数が伸びていない可能性もあると思ひまして、ちょっとこの表からは読み取れないことなんですけれども、この制度の登録児童数としては2,719人いらっしゃるという中で、その保護者または両施設の管理者様に対して、意向調査とか現状の聞き取りとかをなさっているのか、もしくはそうなさっているのであれば、そこら辺から聞こえてくるご意見とかどのようなものがあるかをお聞かせください。

○委員長（門田直樹委員） 保育児童課長。

○保育児童課長（大石敬介） 両施設から聞き取りというのは行ってはおりませんが、通常連絡とかは密には取っておりますので、その中でいろいろなお話はさせていただくんですが、定員が足りないとか不足しているというお話は今のところいただいておりません。

○委員長（門田直樹委員） 木村委員。

○委員（木村彰人委員） もう一つ、これ登録児童の保護者のほうのご意見というのは伺っているんでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 保育児童課長。

○保育児童課長（大石敬介） 登録されてある方のご意見は、特に入れないとか、そういったご意見はいただいております。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかにございません。

長谷川委員。

○委員（長谷川公成委員） 教育・保育施設費のところで、事務報告書35ページなんですけど、入所人員がここに書いてあります。これが令和2年3月31日時点ですね。定員が1,425人に対して合計1,504人と。結構オーバーして、保育所には頑張っていたという状況なんですけれども、これたしか定員オーバーは数年しか認められていないというふうに聞き及んでいますが、今後の対応を何か考えてあります。

これ定員オーバーで、例えばもう卒園する子はオーバーしていて、今度1年生に入学するんですけどいいと思うんですけど、その下の年齢の子たちがやっぱりオーバーすると、なかなか定められた基準がありますよね、例えば何年間かしかオーバーできない。そういったのに今後厳しくなるんじゃないかなと思うんで、何か対応されていることがあれば教えていただきたいと思うんですけど。

○委員長（門田直樹委員） 保育児童課長。

○保育児童課長（大石敬介） 基準が、5年連続で年平均120%を超えてはいけないというような基準があります。これ自体は今すぐ基準を超えるということではありませんけれども、当然保育士の確保をお願いして、できるだけ弾力的な受入れをお願いしているところでございます。

○委員長（門田直樹委員） 長谷川委員。

○委員（長谷川公成委員） じゃあ、120%いかなければ大丈夫ということなんで、一安心したんですけど、今後ともぎりぎりの線だと思いますけど大変だと思いますけれども、よろしくお願ひします。

○委員長（門田直樹委員） ほかに。

神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 今の関連で。施策評価の5ページなんですけれども、今保育園の定員のお話があったんですが、待機児が令和2年4月1日時点で入所できてない児童数が180人となっているというふうに、現状把握の成果指標の増減維持分析のところに書いてあります。その待機児解消のためもあって、20%を超えてプラスして入所をされていると思うんですけども、この施策評価シートのその上の達成状況のところ、指標の3で認可保育園入所希望者のうち入所できない児童数が、令和2年度目標値ゼロというふうになっているんですけども、これは待機時をゼロにしていくという方向で、今保育園の増設だとか、あと対応とかを進められているということなんでしょうか。その辺を教えてください。

○委員長（門田直樹委員） 保育児童課長。

○保育児童課長（大石敬介） 目標としては、待機児童をゼロにするというのを目標に掲げております。昨年で都府楼保育園の建て替えによって40名の定員増と、それから小規模保育施設を新しく新設して、それで18名の増ですので、合わせて58名の定員を増やしているところでございます。

○委員長（門田直樹委員） いいですか。

ほかにございませんか。

徳永委員。

○委員（徳永洋介委員） 教育・保育施設費の件でお伺いしたいんですけども、保育士の方の給与が安いということで、処遇改善ということで、国からとか予算がもう数年前できるようになったと思うんですけども、基本的にはこの私立保育所補助金の中に含まれているんですか。

○委員長（門田直樹委員） 保育児童課長。

○保育児童課長（大石敬介） 委託料の中に含まれています。

○委員長（門田直樹委員） 徳永委員。

○委員（徳永洋介委員） 基本的にはそういう給与に関する予算は、園のほうに任せてあるんですかね。園が管理してあるんですか、その施設。

○委員長（門田直樹委員） 保育児童課長。

○保育児童課長（大石敬介） 処遇改善につきましては、園のほうの裁量というのはもちろんありますので、どなたにどういった給料を充てるかというのは、園のほうの裁量にはなっておりません。

○委員長（門田直樹委員） 徳永委員。

○委員（徳永洋介委員） 園のほうのそういう管理がちょっとおかしくなって、いろいろよその自治体でも結構トラブル等があって、今市のほうの指導とかも強化していくような方向性で自治体も進んでいるようなので、本市でもぜひお願いしたいと思います。要望です。

○委員長（門田直樹委員） ほかにございませんか。

陶山委員。

○委員（陶山良尚委員） 先ほど神武委員の質問に関連するんですけども、待機児童の今後の見通しはどのように考えてあるのか、ちょっとお聞かせください。

○委員長（門田直樹委員） 保育児童課長。

○保育児童課長（大石敬介） 施設の増設、新設に合わせまして保育士確保に努めまして、定員の弾力的な受入れをお願いすると同時に、もう一つ企業主導型、こちらの地域枠というのがございますので、こちらを何とか活用できないかということで、今県のほうとちょっと協議をさせていただいている状況でございます。

○委員長（門田直樹委員） 陶山委員。

○委員（陶山良尚委員） そしたら、今後も待機児童は増えていく、それに対してしっかり対応するということがいいですかね。

○委員長（門田直樹委員） 保育児童課長。

○保育児童課長（大石敬介） 児童の数自体は減少はしておりますが、やはり申込み自体は増えておりますので、今後も受入れの定員を増やしていきたいなというふうには思っております。

○委員（陶山良尚委員） じゃあ最後に。

○委員長（門田直樹委員） 陶山委員。

○委員（陶山良尚委員） そうしましたら、今後、水城小校区でまた新たな世帯が増える可能性がございます。そういったときに、待機児童については地域によってばらつきがあるわけですよね。そう考えた場合、その辺の受入れ施設ですね、今後増えた場合、今の状況で足りることもあるでしょうけれども、申込みが増えているということがございますので、その辺の対応を、今後また保育園を増設、これはもう予算がかかることも含めてどのように対応していくのか、その辺ちょっと具体的に教えていただければと思いますけれども。保育園の増設とか、またその辺も含めて。

○委員長（門田直樹委員） 保育児童課長。

○保育児童課長（大石敬介） 増設につきましては、今年度に水城保育園が建て替えをしております。これで定員が一応10名なんですけれども増える予定にはなっております。その後の増設計画というのは今のところございませんけれども、いろいろな既存の園とも協議して、定員の確保には努めたいというふうに思っております。

○委員長（門田直樹委員） ほかにございませんか。

神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 今の陶山委員の関連で、今企業主導型の保育園の地域枠を使ってっておっしゃっていたんですけれども、実際に市内の企業型保育所の地域枠で、今どのくらい空きがあるのかというのを把握されているのでしょうか。どのくらいあるかというのをちょっと教えていただきたいと思います。

○委員長（門田直樹委員） 保育児童課長。

○保育児童課長（大石敬介） 企業主導型は今5園市内にございまして、定員の半数が地域枠ということになりますので、その地域枠最大で85名ということになります。ただ、どれくらい空きがあるのかというのについては、ちょっと今把握はしておりませんので、今後事業者様と協議をしていくという形にはなっていこうかと思えます。

○委員長（門田直樹委員） 神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 企業主導型が管轄が違う、内閣府の管轄ですかね。直接国からのやり取りになっていると思うので、市がなかなか事業者と連携を取ってということが難しく、どのくらい空きがあるかということ自体も把握が難しいみたいなお話をこれまでされてきたんですけれども、今課長がおっしゃった最大85人あるということで、そこら辺、今答弁の中にもそういう連携ができるように働きかけていくというお話でしたけれども、そののところがぜひ進めていただきたいと、それで待機児解消、ゼロになるように努めていただきたいなと思いま

す。要望です。

○委員長（門田直樹委員） ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、160ページ、4目学童保育所費について質疑はありませんか。

小島委員。

○委員（小島真由美委員） 学童保育所の管理運営費がかなり金額が大きくなってきていて、もう次1億円にいくんじゃないかというぐらいになってきつつあるんですが、利用者もかなり増えてきているということもあって、例えば今テノ、コーポレーションですけれども、ここ2か所に委託をすとかというような感じで競っていただきながら、もっと運営を効率化、また節約しながらという形でのやり方というのはどうなんでしょうね。このままこの1社でやっていくような形になるんでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 保育児童課長。

○保育児童課長（大石敬介） 学童保育所の指定管理料が昨年度増えた理由が、3月にコロナの関係で小学校が臨時休業になりましたので、その期間、学童保育を臨時増設しました。その関係で費用が増えております。

学童保育所も確かに入所児童は増えてきていますので、指定管理、そういった方法についても検討はしていく必要があるかなというふうには思っております。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、同ページ、5目子ども医療対策費について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、6目家庭児童対策費、ページが167ページまでですね、質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、166ページ、3項生活保護費の1目、2目と4項までですね、質疑はございませんか。

小島委員。

○委員（小島真由美委員） すみません、子育て支援センター事業費の質問なんですけれども。

○委員長（門田直樹委員） 許可します。

○委員（小島真由美委員） 大変申し訳ありません。ちょっと気になることが非常にありまして、この163ページの010の家庭児童相談事業と011の子育て支援センターの事業の中で相談事業がずっとあっているんですけれども、虐待の相談が前回24件が今回51件とか、もう倍増していた

りとかする中で、ただ子育て支援センターの事業の虐待の相談はゼロなんです。この辺の、それと子育て支援センターの、コロナがあつての話なので、恐らく利用者さんも減っているのかも分からないんですけども、相談件数が子育て支援センターは若干減ってきているんですけども、この児童相談員に來ている虐待の数が増えていて、この辺の事情というのは何かあるんですかね。

○委員長（門田直樹委員） 子育て支援センター所長。

○子育て支援センター所長（白田美香） 家庭児童相談事業のほうでの虐待の相談が増えているというところに関しましては、やはり社会全体に児童虐待ということの言葉が認知をされてきているということ、それから警察のほうからも連絡が入るようになってきているというところで、子育て支援センターは就学前の子どもたちが集う場所でありますので、そういう子どもたちの相談というよりも、就学されてからの子どもたちの相談ということのほうが増えてきているということで、警察のほうからの通報とか連絡とかも、そういう相談内容というのが増えてきているというところなんです。

それで、虐待相談ということに関しましては、身体的な部分と心理的な虐待というところもありまして、心理的な虐待というのも最近増えているような気がしております。心理的な虐待といいますと、面前DVという言葉が最近よく聞かれるようになりました。面前DVというのは、子どもの前で親がけんかをするとか、それから暴力を振るうとか、そういうのを目の前で見てきた子どもたちが心を病むという、そういうのも虐待に入るのではないかとこのところ、そういう相談というのも増えてきている状況にはあります。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） ありがとうございます。この家庭児童相談員2名で700人から、今回が令和元年が570件という形になるんですが、大体この600件から500件のこういう相談というのを2人でどんなんですか、大丈夫な人員体制なんですか。

○委員長（門田直樹委員） 子育て支援センター所長。

○子育て支援センター所長（白田美香） そうですね、毎日毎日相談があるというわけではありませんし、今2人いらっしゃる先生方にお尋ねしたところを伺いますと、そういう虐待の相談というのはちょっと増えてはきているけれども、ほかの相談というのは学校のほうに相談される方も増えてきているということで、学校のほうにスクールソーシャルワーカーとかスクールカウンセラーとかという方が今おられまして、そちらのほうを、学校におられるということで保護者の方もそういう認知をされてきていて、学校のほうに相談をされることも増えてきているということなので、今のところは2人でも大丈夫だということは何っております。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） それでは011の子育て支援センターの事業のほうにじゃあちょっと、すみません、担当課長が替わると思うので、大変申し訳ありません。

9,057人の子どもが延べ人数で利用されている中で、例えばさつき保健センターのほうからおっしゃってくださったみたいに、傷とか、ここで子育て支援センターの中で気づくような虐待みたいなケースとかというのは、結局ゼロということは、なかったということでよかったですかね。今の状態で。

○委員長（門田直樹委員） 子育て支援センター所長。

○子育て支援センター所長（白田美香） そうですね、そういうことになります。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、166ページ、3項生活保護費、1目、2目について質疑はありませんか。

笠利委員。

○委員（笠利 毅委員） 2目ですね、扶助費のところ、169ページ、生活保護費の葬祭扶助費のことでちょっとお尋ねしたいんですけども、きっかけは知人があまりにも切ないと言っていた話を聞いたことなんですけど、葬祭扶助費、恐らくこれ16人分だったかな、だと思うんですけども、まずどのようなものが補助されるのかということをごちゃごちゃと聞かせてください。

○委員長（門田直樹委員） 生活支援課長。

○生活支援課長（藤井泰人） 葬祭扶助費につきましては、検案、死体の運搬、火葬、納骨、その他葬祭に必要なものが支給されます。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 笠利委員。

○委員（笠利 毅委員） いわゆる直葬費用の部分に限られるということだと思うんですけども、幾つかのところを調べたところ、例えばお経を読むとかという費用は含まれないとか、それはそれでいいんですけども、今回資料の3ページで生活保護世帯の様子をちょっと出していただいたんですけども、大変高齢の独り世帯が多いだろうということは推察されると思います。

そこで1つ伺いたいんですけども、お経を読む費用など行政として出せないというのは分かるんですけども、葬祭の扶助を受けた場合のお葬式を出す際に、果たしてそういうのは駄目ということになっているのかどうか、ちょっとその辺をお聞かせください。お経を読んではいけないとか、お祈りをささげてはいけないとか。

○委員長（門田直樹委員） 生活支援課長。

○生活支援課長（藤井泰人） すみません、今の件につきましては、私、今答える内容をちょっと持っておりませんので、確認してまたお答えしたいと思っております。よろしいでしょうか。

○委員（笠利 毅委員） はい。

○委員長（門田直樹委員） いいですか。

○委員（笠利 毅委員） この先は一般質問的になるので。

○委員長（門田直樹委員） そうだね。

原田委員。

○委員（原田久美子委員） 同じところなんですけれども、外国人は何名ほどいらっしゃいますでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 生活支援課長。

○生活支援課長（藤井泰人） すみません、外国人の人数もちょっと今私持ち合わせておりません。今これがうちのほうで把握できるかどうかちょっと分かりませんが、調べてまた後ほどお答えしたいと思っております。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですね。

ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、4項災害救助費について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 進みます。

168ページ、4款衛生費、1項保健衛生費、1目保健衛生総務費が173ページまでですね。1目について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、2目保健予防費について質疑はありませんか。

小島委員。

○委員（小島真由美委員） 173ページの050成人健康診査費、ここは受診率がちょっと減ってきているように感じるんです、全体的に。元気づくりポイントの制度の中で、ここを基本的には上げていこうというようなことで制度が始まった、発足の意味もあったんですが、この元気づくりポイントとひもづけで考えた場合、少し内容を吟味して、ここを中心にもう少し考え直す必要があるんじゃないかと思ったんですが、このデータヘルス計画との検証等も含めて、この検診のだんだん低くなっていることについての見解と、またデータヘルス計画に、せっかく検証を考えて、これからどういうふうにやっていこうかという何かあったら教えてください。

○委員長（門田直樹委員） 元気づくり課長。

○元気づくり課長（安西美香） 委員がおっしゃるとおり、検診の受診率というのは、胃の内視鏡検診については今年度上がっておりますけれども、他の項目については少しずつ減少しているような状況がございます。ただ、平成元年度につきましては、後半がどうしても1月から3月までの受診率については、コロナの影響を確かに受けているところもございまして、少し申込みの方が実際には検診を受けられなかったという現状もあります。

ただ、全体的には、福岡県も全体的に、どうしても医療機関の多い県の一つにはなっております関係で、その分、身近に救急医療等で助かっている命は多いということですが、やはり予防という観点から考えると、今後またデータヘルス計画の見直しもございまして、もっ

と有効な呼びかけの方法であるとか、元気づくりポイントも今年度検診必須ということで、来年度の状況を見ていかないといけないと思いますけれども、いろいろな工夫を重ねて、受診率を少しでも伸ばしていきたいと思っていますところでは。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） コロナの影響で、若干これの受診率の信憑性がどうかということも確かに考慮される場所でもあるんですが、元気づくりポイント事業の金額もかなり大きくはなっているんで、本質でいくと、こういうデータヘルス計画に沿った中での元気づくりポイントであったりとか、病気予防の形での疾病予防とかの場所での政策を少し考えていただけたらと思います。これはもう要望で結構です。

○委員長（門田直樹委員） 元気づくり課長。

○元気づくり課長（安西美香） 今年度やはり元気づくりポイントも、満タンの場所で行きますと検診が必須というあたりと、確かに元気づくりポイント、今利用者が後期高齢の方も多い現状で、なかなか検診のほうに跳ね返っていかない部分もございますけれども、また見直しを重ねまして、来年度の状況から確認して、また検討の課題を見ていきたいと思っています。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、174ページ、3目母子保健費、177ページまでですが。

（「2目はしました」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 今これ、保健予防費、今したね。いいですか。

ということで、174ページからの3目について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、176ページ、4目環境衛生費。

神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 猫のことなんですけれども、地域猫の件で、事務報告書にはそういう数字が載っていないんですけれども、地域猫、それから野良猫の苦情が恐らく増えていると思うんですよね。予算委員会するときにもそういう話が出ていたんですけれども、増えているのか、その辺、少し数字的なものとかあれば教えていただきたいと思っています。

○委員長（門田直樹委員） 環境課長。

○環境課長（中島康秀） 飼い主のいない猫、野良猫の相談なんですけれども、ここ3年ぐらい、毎年30件程度の相談が寄せられております。30件というのが、対応した件数ではなくて、1件当たり何回も対応をしなければならないこともございますので、その事象として30件あるというところで今推移をしております。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） どの地域でも問題になっているようで、自治体のほうも大変な思いをされているようなんですけれども、大野城市のほうで迷惑条例の中に、猫への餌やりなどを気をつけるようにというような項目を載せたものがあるんですけれども、そういうものをつくって、市民の方にそういう意識を持っていただくということも必要なのではないかなと思うんですけれども、そういう検討とかはされていますでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 環境課長。

○環境課長（中島康秀） 大野城市が確かに、無責任な餌やりをしないようにというような項目で条例の中に上げております。無責任なというのがついているのが、通常の餌やりをして、ちゃんと後、ふん尿の始末までされている方までを規制するものではないと。そちらのほうは動物愛護法のほうで守られているものでもありますので、そこを無責任な餌やりというのをどう考えるかというのも非常に難しい問題なんですけれども、市民の方からもそういったお声を聞くことがございますので、これからちょっと検討していきたいというふうに考えております。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 被害というか、繁殖してしまっているところなんかは、地域の方たちの調整をしたりとかで、やはり困ってあるというような土地がありますので、ぜひ検討していただいて、皆さんで気をつけようというような雰囲気をつくっていただければいいかなというふうに思いますので、お願いします。

○委員長（門田直樹委員） 長谷川委員。

○委員（長谷川公成委員） どこで質問したらいいのか分からないので、あえてここですけれども、民地ですね、例えば家とか空き地ありますね。そこで木が増え過ぎて、例えばミラーがありますね、ああいうのにかかったりとか、例えば歩行者が歩くのに邪魔になったりとか、これはここでいいとかいね。もうちょっと先かな。ここでいいんですかね。もうちょっと先なら、先でも言いますけれども。どこでしょうかなと思って。所管が違うならあれですけども。委員長、どうしたらいいですか。要するに樹木がいっぱい出ているんで。

○委員長（門田直樹委員） 環境課長。

○環境課長（中島康秀） うちのほうで空き地の管理に関する条例を持っておりまして、そこで雑草が繁茂したり樹木が伸びていたりというところで、空き地の分は環境課のほうで対応しております。

今委員ご指摘の分については、道路にはみ出してカーブミラーとかにかかっているという分は、道路管理上の問題があるかと思っておりますので、そういった分については、うちもそうですけれども、建設課とも一緒に対応しているところでございます。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 長谷川委員。

○委員（長谷川公成委員） それで、切ってくれってお願いに行っても、なかなか、大規模な範囲だったらお金がないからできないというふうに断られたりするらしいんですね。何かそういった相談があったときに、市として何か対応を、どのような対応を考えてあるのか。お金がないって言われたら、もうずっと出っ放しで、逆に言うとまた伸びていって歩行者の邪魔になるとかなってくるじゃないですか。

例えば、来年度予算にはどうなるか分からないんですけども、反映させるか分からないですけれども、例えば幾らかでも補助を出すとか、そのようにしてもらわないと、歩行者、通行者ですね、そういったものの邪魔になりますので、何かしら対応策を取っていただきたいなと思って、この質問をさせていただいたんですが、検討しますで終わるかな。見解があればお願いします。

○委員長（門田直樹委員） 環境課長。

○環境課長（中島康秀） 基本的に土地の管理というのは土地の所有者がすべきものということで、ここに公的資金をつぎ込むことはいかがなものかというふうな考えでおります。ですので、現在のところ補助をすとかということまでは考えていないのが現状です。ちょっとすみません、ここまでしかお答えができないので。

○委員（長谷川公成委員） 大丈夫です。

○委員長（門田直樹委員） それでは、178ページ、5目公害対策費について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、同ページ、6目環境管理費、181ページまでですが、質疑はありませんか。

笠利委員。

○委員（笠利 毅委員） 細目210の環境基本計画推進費に関する事なんですけれども、決算審査資料をいただいて、5ページになります。

環境基本計画が第3次が今年で終わりで、コロナの影響で次の計画の審査が遅れているとは聞いているんですけれども、基礎的な調査は終わっているだろうと思ったので、ちょっと資料を求めさせていただきました。

それで、質問なんですけれども、1つは、この令和元年度、7万2,000人のごみ減量プロジェクトといいましたかね、それがあったかと思います。大分力を入れていたと思うんですけれども、その結果も知りたくてお尋ねしたんですけれども、まずそれについてどのような評価、この1年間をされているのかということが1つと、もう一つは、低炭素社会の構築に関するという第4章のところのデータをいただきましたけれども、ここ2年ほど、CO<sub>2</sub>換算の量でいうと、いい方向に向かっているようなんですけれども、その要因等が分析されているのかどうか、ちょっとお聞かせいただきたいと思います。

○委員長（門田直樹委員） 環境課長。

○環境課長（中島康秀） まず、ごみ減量のほうなんですけれども、昨年度出前講座のほうを結構力を入れて行いまして、14回ほど講座を行いました。そういったところで「水切り、食べ切り、使い切り」ということをPRしてごみの減量をお願いしているところです。また、生ごみの処理機ですね、こちらのほうの補助金のほうも昨年度はほぼフルに活用できております。

そういった活動をしているんですけれども、実際ごみの量というのが減っていないというのが現状です。やはりなかなか、来てくれる方は大体そういった活動をきちんとされている方、理解をされている方がそういった講座に来られますので、なかなかそういったところに来られない方への啓発というのが、こちらのほうも苦慮しているところではございます。

今年度も引き続きというふうに考えておったんですけれども、コロナの影響でなかなかそういった講座等ができずに、そちらのほうはできてないんですけれども、生ごみ処理機の補助金などは、段ボールコンポストも含めて、広報のほうでかなりページを割いていただいて啓発を行っております。おかげさまで生ごみ処理機の補助金のほうも活用できておりますし、10月、11月号でまた段ボールコンポストの啓発を行いますので、そういったところで利用が増えていけばというふうに思っております。

あと、CO<sub>2</sub>の排出量の件なんですけれども、こちらの表のほうが、ちょっと私のほうの説明が不足しておりまして、確かにここ2年減っているんですけれども、実は市域電力使用量、一番上の表なんですけれども、こちらのほうにつきましては九電のほうから資料をいただきまして、こちらに掲載をさせていただいております。平成28年以降、新電力のほうはかなり増えてきておりまして、そちらのほうの数字というのが実際つかめない状況です。ですので、新電力のほうに流れた分については、こちらのほうに数字が入っていないというところで、実際こんなに減っている状況ではないというのが現状でございます。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 笠利委員。

○委員（笠利 毅委員） あと、環境基本計画の進行状況のようなことに関わることなんですけれども、この10年の表を見ても、なかなかその数値目標って決めるのも難しい領域だということは承知しますけれども、他方で今も啓発とか広報ということがあったように、実質的に市としては啓発に取り組んできたという性格が濃いんじゃないかと思うんですね、この環境基本計画に関して言えば。

ただ、世の中の流れからすると、もっと具体的な動きが求められている領域でもあるので、例えば機構非常事態宣言とか、ゼロカーボンシティ宣言というような形で、もっと先の目標を踏まえてこの10年の計画をつくるみたいな、そうした環境基本計画の中に込めていくタイムスパンというか、そのようなものについての考え方で一定の議論がなされてきたのかどうか、その辺だけお聞かせください。つまり、10年でこれをやるという計画になりそうなのか、もっと長い視野の中でこの10年を位置づけていくという方向性を取っているのかということです。

○委員長（門田直樹委員） 環境課長。

○環境課長（中島康秀） 第4次の環境基本計画なんですけれども、委員今おっしゃったように、計画の進捗状況が非常に遅れておまして、まだその骨子等を作成するまでに至ってないと、調査がやっと終わった段階というところでございます。これから先の計画の構成等もまだはつきりしていない状況ですので、どういったもの、今おっしゃったようなものまでここで答えすることができないんですけれども、国が既に国の環境基本計画を策定しておりますし、SDGsの考え方もございますので、そういったところも計画の中に取り込んでいながら計画をつくるということになるかとは思いますが。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

笠利委員。

○委員（笠利 毅委員） 分かりました。じゃあ、これは希望だけ述べて終わりますけれども、せっかく環境省との交流人事もあることですので、予算審議の段階で計画の柱というのはもう打ち出されていたと思うので、それを具体化できるように頑張ってもらいたいと思います。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですね。

ほかにございせんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、180ページ、2項清掃費、1目清掃総務費について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、同ページ、2目塵芥処理費、ずっと行きますと185ページまでになりますが、2目について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、同ページの3目し尿処理費、187ページまで質疑はございませんか。

橋本委員。

○委員（橋本 健委員） 187ページのし尿処理費、運搬委託料ですけれども、これ太宰府市内に何世帯あるのか。また、事業所もあると思うんですが、ちょっと詳しい内容を教えてください。

○委員長（門田直樹委員） 環境課長。

○環境課長（中島康秀） 家庭のほうですね、し尿のくみ取りの契約件数が118件ございます。また、事業所のほうが67件でございます。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 橋本委員。

○委員（橋本 健委員） ありがとうございます。私が住んでいる住宅内もくみ取りがあるんです

けれども、やはり慌てて窓を閉めたりすることがあるんですが、PRといたしますか、水洗トイレに変えるという行政からのPRなんかはなさっていますか。

○委員長（門田直樹委員） 環境課長。

○環境課長（中島康秀） 下水道への接続の件につきましては、上下水道施設課のほう、こちらのほうが勧奨しているところなんですけれども、なかなか家の建て替えのタイミングであるとか、古くなった賃貸住宅であるとか、そういったところで新たに接続をなかなかしていただけないというところもあるようです。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、3項上水道費、1目上水道事業費について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、同ページ、5款労働費、1項労働諸費、1目労働諸費について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、13時まで休憩します。

生活支援課長。

○生活支援課長（藤井泰人） 先ほど生活保護費の関係で2つご質問にお答えできませんでしたので、ここでちょっとお時間のほうをいただきたいと思います。

決算書は169ページですね。扶助費の葬祭扶助費についての笠利委員からのご質問でした。これについて確認いたしましたら、生活保護の国の基準、考え方がございます。それに基づいてこの事務を進めておるわけですが、先ほどもちょっとお話が出ていました直葬のみという考え方がございまして、お経等を上げる費用についてはこの基準の中にはないということになります。こちらの葬儀につきましても、必要最小限のところを公の費用をもって支援をしているというふうな考え方から、この直葬のみの葬儀にさせていただくというふうなお話をさせていただいております。

続きましてもう一点、原田委員のほうからのご質問で、外国人の生活保護者はどのくらいいるかということでした。今現在、9月1日の直近の外国人の人数を今確認いたしました、8名。今こちらで確認できるのが8名になります。

以上になります。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですね。

経営企画課長。

○経営企画課長（佐藤政吾） 申し訳ございません。先ほど笠利委員さんからの質問にお答えでき

なかった分をお答えさせていただきたいと思います。

決算書では107ページの一番下に990総合企画推進費がございますが、総合企画推進費で予備費の充用、それから予算の流用の件数、金額だったと思います。

まず、すみません、予備費の充用でございますが、こちらの総合企画推進費への予備費を充用いたしましたのは4件、金額にいたしまして2,040万8,700円でございます。流用に関しましては16件、890万8,000円ほど流用させていただいております。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） いいですか。

では、13時まで休憩します。

休憩 午後0時00分

~~~~~ ○ ~~~~~

再開 午後1時00分

○委員長（門田直樹委員） それでは、再開いたします。

税務課長。

○税務課長（森木清二） 午前中、藤井委員のほうからお尋ねの件を回答したいと思います。

ページ数は119ページでございます。下のほうの過誤納金還付金の件数と、最も大きい還付金額とその内容についてでございます。

件数ですけれども680件、最も大きい金額が292万8,400円でございます。中身につきましては、前年度の法人税割で当初予定していた税額と法人の確定申告の税額との差額が今回の還付額になります。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですね。

それでは、188ページ、6款農林水産業費に入ります。

1項農業費、1目、2目について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、同ページ、3目農業振興費、191ページまでですが、質疑はありますか。

神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 189ページ、農業振興費、委託料の有害鳥獣駆除委託料なんですけれども、事務報告書の45ページで有害鳥獣捕獲頭数が、今種別でイノシシ、アライグマ、鹿で264頭というふうになっているんですけれども、方法としては以前、箱わなとか聞いていたけれども、今どういうふうな状況か。それと、頭数、発生数ですかね。発生状況、苦情とかというような状況が今どうなっているのか、どのような苦情などがあるのかということをお聞かせ願いたいと思います。

○委員長（門田直樹委員） 産業振興課長。

○産業振興課長（伊藤健一） まず、捕獲する手段といたしますですか、従来から箱わなということを中心にやっております。私どもは今最も効果的かつ安全といたしますか、箱わなしかないのかなということで、箱わなを設置しております。一部では猟友会の方がくくりわなということでやっている分もありますが、大部分が箱わなということになっております。

苦情につきましては、この7月、8月、9月ぐらいですかね、かなり受けております。農家ではなくて、生活を脅かすような存在ということにもなっておりますので、一般の住民の方からもいろいろご相談をいただいております。それで、箱わなを設置場所を変えたりとかで、何とか対応しておるのが現状でございます。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） あちこちで被害というか、イノシシが下りてきて斜面を削ったりとか、掘ったりして穴ができたとかというようなことで目にすることがちょっと増えてきているように感じていますし、苦情というか、そういう話も聞いているんですけども、あと畑なんかをされている方々のところでは、収穫前ぎりぎりのところで食べられたりとかというようなことも話を聞いているんですけども、以前に農業をされている方々に対しては、柵を作るので国から補助があったというふうに聞いたんですけども、今そういうものに対しての補助とか、また市独自としてはあるのでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 産業振興課長。

○産業振興課長（伊藤健一） 市独自の補助はございません。農産物被害に関する分ということで、農水省の補助があることはあります。ただし、要件がございまして、地域で何件以上の被害があったとか、農家の何人からの声が上がっているとか、幾つか要件がございまして、そのようなことをクリアする必要があるがございます。まだ農水省のほうじゃ残っておると聞いております。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） そういう畑に対しての影響と、あとはもう住民に対しての被害もちょっと考えられるような状況になってきていますので、そういう対策を少し、国からの補助なりも含めて、市独自でもできないかということを検討していただきたいというふうに思います。要望です。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、190ページの4目都市近郊農業推進費について質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、同ページ、5目農地費、193ページまでですが、質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、192ページの2項林業費、1目、2目、3目までですが、2項林業費について質疑はありませんか。

原田委員。

○委員（原田久美子委員） 事務報告書の99ページの中ほど、そして決算書は181荒廃森林再生事業費の委託料、市民の森の樹木梅剪定業務委託なんですけれども、この梅というのは梅の実でしょうか、梅の木でしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 産業振興課長。

○産業振興課長（伊藤健一） 梅の枝の剪定でございます。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 原田委員。

○委員（原田久美子委員） その梅の実のほうはどういうふうになっているんですか。それはもうこの剪定の中には入っていないということですね。

○委員長（門田直樹委員） 産業振興課長。

○産業振興課長（伊藤健一） 梅の実の収穫ということでは入っておりません。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、194ページ、7款商工費、1項商工費、1目商工総務費が197ページまでですが、1目について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） じゃあ、進みます。

196ページ、2目商工振興費、199ページまでですが、質疑はございませんか。

陶山委員。

○委員（陶山良尚委員） 特産品については以前から一般質問でしてきました。今までもこういう協議会をつくって様々な議論をされてきました。その中でなかなか、私が思うところによりますと、結果を残さないまま協議会が終わるとか、そういうことがあったと思うんですね。

今回は昨年の7月に発足されてつくられたということで、今回最終的には、規則の中にも特産品等に関する事、またその他必要な事項ということで調査項目もございますけれども、最終的には特産品の開発に向けた形での協議が進むのかなと、そういうことで期待していいですかね、これは。

○委員長（門田直樹委員） 産業振興課長。

○産業振興課長（伊藤健一） おっしゃるとおり、過去のいろいろな経緯といたしますか、いきさつといたしますか、ございます。今回の産業推進協議会につきましては、そのあたりのことも踏ま

えまして、本市の特産品を含む産業全体に関して進むべき方向、道しるべを示した上で、具体的な施策を検討していきたいというような形で、従来の審議会とか協議会とはちょっとコンセプトを変えるというんですか、そのような形で今進めておるところでございます。

○委員長（門田直樹委員） 陶山委員。

○委員（陶山良尚委員） そうしましたら、施策的な最終的には上げていくような形になると思うんですけれども、これは間違いなくそういう形で進んだ場合、この特産品の開発に向けて具体的にどこが主体性を持ってやるのか。そこまでまだ話は全然行ってないかもしれませんけれども、市でやるのか、商工会でやるのか、観光協会で行うのか、その辺考えをお持ちであれば、ちょっとお聞かせいただければと思いますけれども。

○委員長（門田直樹委員） 産業振興課長。

○産業振興課長（伊藤健一） 今申し上げましたように、特産品を含みます産業全体に関して進むべき方向性を探るといふようなこともしておりますので、まだそこら辺までの議論には至っておりませんし、私ども先入観を持ってするのではなくて、自由な議論の中で方向性を見いだせればというように考えております。

以上でございます。

○委員（陶山良尚委員） 取りあえず。

○委員長（門田直樹委員） ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 198ページの3目消費者行政費について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、4目観光費がずっと行きまして205ページ、最後までですね。4目観光費について質疑はございませんか。

笠利委員。

○委員（笠利 毅委員） 3か所あるんですけれども、まず201ページの13節委託料、観光客滞留時間等調査業務委託料についてですけれども、これどのような調査であったかということをお願いしたところ、報告書全部いただいて目を通したんですけれども、実際に行われた調査内容は、滞留時間を調べたというよりは、より広範な内容であったと思うので、それを、今年はまだしか予算ではこの項目は金額が減っていたと思うんですけれども、どのように今後活用していくつもりなのかということですね。それが1つ。

それと、その下、19の負担金の中で太宰府ブランド創造協議会負担金450万円と。これたしか令和を受けて、途中で100万円かな、予算を補正していたと思うんですけれども、これは協議会として全体の年間予算というか、それがどんなふうになっているのかということと、それをどういう割合で負担し合う形で取り決めてあるのかということをお教えください。

もう一つは、次の203ページですけれども、292細目の19負担金、観光公衆トイレ整備負担金。これに関する補正が出ていた記憶はあったので、調べたら、天満宮さんのトイレが公用性

というか公共性が高いので負担したということだったんですけども、負担金、補助金、交付金というのは、ほかのどこを見ても、可能な限りどこへというのが固有名詞で分かるような形で上げてある場合がほとんどだと思うんですけども、ここもはっきり分かっている、はっきり委員会でも説明されているので、天満宮の公衆トイレとかという書き方をしたほうがいいのではないかと思ったので、ちょっと何かしらこのような表現を選んだ理由があればお聞かせください。

以上、3点です。お願いします。

○委員長（門田直樹委員） 観光推進課長。

○観光推進課長（池田哲也） それでは、3点のほうの説明をさせていただきます。

1つ目、活用方法でよろしいですかね。

○委員（笠利 毅委員） はい。

○観光推進課長（池田哲也） 現在、様々な調査をしております。年間に3回。1回の調査につき3日間、大体金土日ということで調査のほうをしております。本年度につきましても、8月に1回目ということでやったようなところでございます。

活用方法についてですが、今現在調査内容といいますのが、外国人の方々がどこから来てあるかとか、滞在時間とか消費額、太宰府市内でお金を幾らぐらい使っているかというような調査を現在行っております。調査方法といいましたら多岐に一応わたるようなものにはなろうとは思いますが、現在その調査も、このコロナでインバウンドの観光客の方々が見えられてないような状況もございまして、すぐに調査のほうに全て生かせるかといいましたら、少し疑問点も残るようなこともあろうかと思えます。

ただし、その消費額、どのくらいのお金を太宰府市内で使っているか等につきましては、今後消費額を増やすための努力、何か、今ちょっと産業振興課のほうでも少し出ておりましたが、特産品、今現在調査の中から見えてきたようなものもあるんですが、太宰府といえば梅ヶ枝餅とかということしか思いつかないという調査データも出ておりますので、今後そういう特産品とか消費額とか滞在時間とかのほうに生かしていければいいなというふうに考えております。

2点目、続きます。

負担金、ブランド創造協議会の負担金になります。これは一括でお支払いしておりますが、中身につきましては、もうほぼ古都の光事業のほうに当たっておるような状況になります。

次に負担割合を申し上げます。天満宮さんが50万円、商工会、観光協会さんが各10万円、残りが市というふうになります。

3番目の項目になります。トイレの関係の工事費のほうですが、理由というのは特にはなかったんですけど、ちょっと記載の仕方が悪かったような状況になりますかね。申し訳ございません。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 笠利委員。

○委員（笠利 毅委員） 再質問ということでもないですけども、調査に関して言えば、まだ過去のデータの蓄積もそれほどないと思うので、とはいえ、これは結構この先、大事になってくるものだと思います。若干、名称と内容の広がりとの間に乖離というか、いい意味でのずれがあると思うので、その辺も含めて今後に生かせるように、調査の仕方ももしかしたらもう少し密な調査が必要なのではないかという、これは印象ですけども、感じたので、そこの改善の余地はあろうかと思うので、そこは努力していただければと。それが1点。

2点目は、これ確認ですけども、実質的には太宰府ブランド創造協議会で行う古都の光は、実質上、市が負担するような形で、市の事業に近いような催しだというふうにほぼ理解しても大差ないなということですね。

3点目は素朴な疑問だったんですけども、改善できると思うのであれば、よろしく願います。

2点目だけ確認的にお願いします。

○委員長（門田直樹委員） 観光推進課長。

○観光推進課長（池田哲也） 今現在、このブランド創造協議会を中心に、古都の光事業というのを水城跡から太宰府天満宮までの広範囲で実施をしておるような状況です。そのほかにつきましても、ブランド創造協議会のほうで観光に関する様々な検討課題等を考えておるような状況です。今後につきましても、委員のほうがおっしゃるようなスタイルを計画していきたいというふうに考えております。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかにございませんか。

木村委員。

○委員（木村彰人委員） 決算書203ページ、審査資料は7ページです。細目293の太宰府館管理運営費について、13節の委託料についてお伺いします。

前回まではこの太宰府館の管理費についてお伺いしてきたところなんですけれども、今回は利用状況をちょっとお伺いします。いただいている資料に基づき、順番に聞いていきたいと思うんですけども、まず1点目、施設の各部屋の利用数の推移ですけども、一覧表をいただきましたけれども、これ3年間しかないところで判断すると、だんだん減っているように見えるんですけども、この利用者数の推移について状況をご説明ください。

○委員長（門田直樹委員） 観光推進課長。

○観光推進課長（池田哲也） 今提出の資料のほうについてですが、委員のほうがおっしゃるとおりに、若干少しずつ下がっておるような状況も見受けられます。この内容というのにつきましては、ちょっと私のほうも理由というところまでは至ってはないんですが、事業内容的にはほぼ同じような事業を継続して続けておるようなところが、新規事業等がないようなところが理

由ではなかろうかというふうに思っております。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 木村委員。

○委員（木村彰人委員） 次に、ここの施設の目玉と言われる事業だと思わんでも、体験プログラムの利用者数、これについても横ばいというふうな判断をせざるを得ないんですけども、これについてもご説明ください。

○委員長（門田直樹委員） 観光推進課長。

○観光推進課長（池田哲也） こちらにつきましても、前に説明したとおり、状況というのがきちんと分かっておるようなところはないんですが、初めての方が2度、3度、利用されるかと申すと、そのようなこともございませんので、今後中身の検討がさらに必要になってくるのかなというふうに思っております。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 木村委員。

○委員（木村彰人委員） 今の質問に関連して、体験プログラムの利用者数の推移に関連して、体験プログラムのメニューですよね。こちらのメニューのほうはほぼ変化がないか、もしくは逆にメニューが減ったように思うのですが、この施設、実はこれ、本市の直営の施設でありますので、体験メニューの充実についてどのような取組を今までなされたか、ご回答ください。

○委員長（門田直樹委員） 観光推進課長。

○観光推進課長（池田哲也） これまでの取組についてということになります、検討のほうを実際のところでできてないような状況になるのかなというふうに思っております。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 木村委員。

○委員（木村彰人委員） これ最後になるんですけども、この太宰府館の施設の目的とか存在意義がすごく不明確になりつつさらにあるような状況でありまして、この施設自体が漂流しつつあるような感じを受けざるを得ないんですけども、今または今後どのような検討をされるべきか、お答えください。

○委員長（門田直樹委員） 観光推進課長。

○観光推進課長（池田哲也） 太宰府館につきましては、ここ数年、そのようなご意見を多数いただいております。そちらにつきましては、多方面からと考え方を今後の計画の中に取り入れながら、今後計画を進めていきたいところでございます。

以上です。

○委員（笠利 毅委員） 関連して。

○委員長（門田直樹委員） 笠利委員。

○委員（笠利 毅委員） 今のところに関連すると思わんですけども、歳入のほうで出てきた太宰府館の数字についても尋ねてよろしいでしょうかね。

- 委員長（門田直樹委員） 歳入に関して聞く、太宰府館のありようについて聞くわけ。
- 委員（笠利 毅委員） 使用料のことです。
- 委員長（門田直樹委員） 関連する、数字そのものだったら、また歳入のところで聞いていただきたいけれども。
- 委員（笠利 毅委員） どちらかというこの資料に関係する感じだったんで。
- 委員長（門田直樹委員） また歳入のところで聞いてくれる。
- 委員（笠利 毅委員） 分かりました。
- 委員長（門田直樹委員） ほかにございませんか。

小島委員。

- 委員（小島真由美委員） 199ページの290観光宣伝費で、旅費60万円ぐらいでしたかね、金額的にはそう大したことはないんでしょうけれども、この観光プロモーションで北海道へ行かれたり金沢へ行かれたり、お一人、市の職員がこれ行かれているのかどうか。ずっとこれ毎年毎年同じ場所で、デパートなんかで行ってくださっているようなんですが、もう少しプロモーションのやり方を考えてもいい時期に来ているのかなとも若干思ったりもしているんですが、ただここ、パンフレットを渡すとかそういう内容だったと思うんですけども、せっかく出張されて、何か契約を結んでくるとかという動きとかあるんでしょうか。

- 委員長（門田直樹委員） 観光推進課長。

- 観光推進課長（池田哲也） ただいまの質問についてですが、まず職員のほうが行っております。市独自に相手先を見つけたりして行っておるような事業ではございません。県の物産振興会さんとか県の組織、観光に関する相手先からの依頼に基づいて、市のほう、天満宮さんのほうとご一緒に行かせていただいて、向こうでのPR活動を担っているような状況になっております。

以上です。

- 委員長（門田直樹委員） 小島委員。

- 委員（小島真由美委員） 太宰府は毎年同じところに行っているというようなことがあって、少し慣例化しているような気もするので、少しプロモーションを考えたほうがいいんじゃないかなという気もしているんですが、次のページの先ほどあった観光客の滞留時間等の調査業務委託料、これももう5年前、随分前からこの調査始まっている、令和元年度は240万円ほどかけて3日間ぐらいだったですかね、調査期間が。市内の大学がたくさんある中で、学生とかを使って、もっと効率的にこの調査とかをやれないものかというのを前から提案させていただいたりとか、また今回インバウンドがしばらくは見込めない中で、滞留時間というよりも、どこからお見えになったかとかという、遠近中、近場のどこら辺から来られたのかという交流人口の中で分析していくという方法も、これからコロナの第3波とかということを考える中では必要だと思っておりますが、この調査の在り方について何か検討の余地はある内容がありますか。

- 委員長（門田直樹委員） 観光推進課長。

○観光推進課長（池田哲也） 委員のほうが言われるように、近年マイクロツーリズムというんですかね、近場の旅行の関係の言葉だろうと思いますが、やはりインバウンドの減少、そして今年のようなコロナの関連の状況、そういうのも踏まえますと、調査方法の中身の検討の時期に入らざるを得ないのかなというふうに思います。今後検討させていただきたいというふうに思います。

○委員（小島真由美委員） 学生を使ってとか。

○委員長（門田直樹委員） 観光推進課長。

○観光推進課長（池田哲也） 申し訳ないです。学生についてですが、今現在、日本経済大学さんの卒業生が起業された会社があります。そちらのほうで留学生の卒業生を中心とした会社ということで、外国語を話せる方が多いということで、そちらのほうに今現在は頼んでいるような状況もございますが、今後契約を伴わないような、学生さんのお力添えができるような事業についてちょっと考えていきたいと思っております。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） ほかにございませんか。

船越委員。

○委員（船越隆之委員） 太宰府館の件でいいですかね。太宰府館は今までもここ四、五年、一般質問しましたけれども、これ一向にいろいろな内容的なことがどういような、活性化させるためにどういような使用の仕方をするかというのを、ずっといろいろな議員さんたちも質問してきたと思うんですね。にもかかわらず、まだ4年、5年たっても同じようなことなんですよ。だから、実際どのように今後していかなといけないかなというのは本気で考えてあるのかなということがちょっと聞きたいんですね。お願いします。

○委員長（門田直樹委員） 観光経済部長。

○観光経済部長（吉開恭一） この件につきましては、従来からそれぞれの議員さん方からも、一般質問なりそのほかの場でる質問等をお受けしておりました。庁内の検討委員会等をつくりまして、幾つかの方法について、こういう方法であればということで検討はしておりますけれども、最終的にこういう形で進むという結論までには至っておりません。

今後、来年の話をすれば、税収が減るようなこともありますし、いつ結論が出るか分かりませんが、行財政改革の中で、この太宰府館あたりの取扱いについても、どのようにするかは検討していく必要があるのかなというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 船越委員。

○委員（船越隆之委員） そういういろいろな庁内でも検討されているということなんですけれども、例えばそういう検討の内容的な、今後こういうような形で進めていきたいとかといういろいろ検討されているのであれば、議会のほうにもこういうふうな感じで一応検討はしているんだけれども、何かいい案がないですかというような報告をされながら、意見も聞いていただき

たいというのが私たちの考えなんですよ。

だから、あまり、しているのは分かるんだけど、前に一向に進まないから、そういうことも含めて、そういう案があればこちらのほうにも報告だけでもしてほしいというのが要望です。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかにございませんか。

神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 203ページ、委託料のクルーズ船観光客対策業務委託料364万7,016円なんですけれども、事務報告書の102ページにこの委託内容が2つ上げてありまして、太宰府駅前の交差点歩行者案内業務委託とトイレ利用社会実験業務委託の2つの合計金額になっているんですが、このトイレ利用社会実験業務委託、これは内容としてはトイレ清掃員の追加配備というふうになっているんですけれども、この社会実験業務委託ってこの業務名が、社会実験とこの清掃員の配置のこの関連性というのはどうなっているんでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 観光推進課長。

○観光推進課長（池田哲也） こちらの社会実験についてご説明をさせていただきます。

こちらは、外国人旅行者向けの、トイレのマナーがとても悪いような状況ということで、トイレのほうが荒れているような状況がございました。こちらはクルーズ船の利用者のお客様が特に利用のマナーが悪いというようなこともございましたので、バスの車内とかでマナーの説明とか、やはり国によってトイレの使用方法が違うということもございまして、そちらのほうを中心に啓発活動等を行うような社会実験というふうになっております。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

長谷川委員。

○委員（長谷川公成委員） 太宰府館の活用についてなんですけれども、この太宰府館という、管理運営費などでちょっと、本当は教育部のところで言いたかったんですけども、過去小学生が梅ヶ枝餅体験とかとって太宰府館を利用していたんですよ。そこで梅ヶ枝餅を作って、参道に行って観光客にいろいろ質問して、授業の一環としてですね。

過去にも言ったことがあるけれども、校長先生が替わると、もうすぐそういったいいことをやめてしまうんですね、自分の範疇か何かで。そういうのはやっぱり教育委員会と、こうやってせっかくいい、子どもたち、正直言うと太宰府館へ行ったこともない子もたくさんいるので、それでやっぱり宣伝になると思うんですよ、市の施設がこういうのがあるよというので。

ですので、何かちょっとそこらで何か協議をしていただいて、例えばもう小学校何年生、当時3年生だったかな、には太宰府館を活用してそういった体験をすとか。そうしないと、市外もそうですけれども、市内の人たちに広く周知できないと思うんですね。知らない人いっぱいいますよ。

ですので、何か今後そういうふうな協議を行っていただいて、とにかくまずは、市外もそうですけれども、市民の方にも知ってもらうというふうにしないと、これは太宰府館がどんどんどんどん衰退していくような私は気がしますので、ぜひとも何かそういった協議をしていただきたいと思います。これは答弁は難しいと思いますので、要望しておきます。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、204ページ、8款土木費に入ります。

1項土木管理費、1目土木総務費、207ページまでですが、1項1目、質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、同ページ、2項道路橋梁費、まず1目、2目までですね、209ページまで質疑はございませんか。

小島委員。

○委員（小島真由美委員） 207ページの240の道路橋梁維持補修費に入るのかどうかちょっと分からないんですが、以前空洞調査をお願いしたところ、空洞調査していただきまして、太宰府市の中でも20か所以上の空洞が危ないところがあるということが以前発覚した状態がありました。

大野城市さんは、これは3か年計画で、全体の350kmの道路のうちの86kmの空洞があるというところのうち、34kmをもう既に調査をして、60か所の空洞を見つけたというような状況があって、これは大野城市に限らず、空洞調査はもう今当たり前の調査の中に入ってきていて、計画もあるんですが、本市のこの空洞調査の計画の状況とかを教えていただけたら、お願いします。

○委員長（門田直樹委員） 建設課長。

○建設課長（中山和彦） 空洞調査の件につきましては、本来予算でしたら生活道路改良費の中にあるかと思いますが。空洞調査は毎年、ある程度の路線の限られた延長で随時進めておりまして、例えば令和元年度におきましては、湯ノ谷地区と東ヶ丘地区の13路線、延長3kmを調査させていただいております。結果といたしましては2か所ほど空洞化が見られたけれども、空洞も小規模であったからということで、定期観察しているところなんですけれども、この点につきましては、毎年予算を組みまして進めていっているのが現状であります。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） これは事前に計画に基づいてするということなのか、そこにお住まいの方から通報があって、ちょっと空洞調査をしたほうがいいんだろうということでやっている事業なのか、その辺お聞かせください。

○委員長（門田直樹委員） 建設課長。

○建設課長（中山和彦） 過去に陥没事故等もありまして、市としまして考えられる地区を全体的に見まして、それを進めていっております。ただ、全体を一遍にしますと相当な金額がかかりますということから、当時から一定額を持ちまして毎年やっていっているというのが現状であります。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） 太宰府市の真ん中を走る県道についても、数分老朽化した道路も太宰府天満宮の裏ぐらいからずっとあるわけで、県と一緒にタイアップをして、これは恐らくメーターとかキロで長さによって金額が設定されているような業者の単価だと思うんですね。例えば隣の太宰府市さんとか筑紫野市さんとかと一緒にやるとか、県と一緒にやるとかというようなやり方はちょっと難しいんでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 建設課長。

○建設課長（中山和彦） 私もご意見お聞きまして、そこまでちょっと考えておりませんでした。

近隣市もいろいろどういふふうな形でやっているのか、やったのか、そういうところをまた研究させていただきながら、方策は考えていきたいと思っております。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかにございませんか。

笠利委員。

○委員（笠利 毅委員） 209ページ、道路橋梁新設改良事業費の22の補償、補填及び賠償金のところですが、これは水城・口無線のことだと思いますけれども、令和元年度の優先度の高い路線だったということなので、その1年間、どういう経緯でここまで進んだのかということと、可能ならその後どうなっているかということをご報告いただければと思います。

○委員長（門田直樹委員） 建設課用地担当課長。

○建設課用地担当課長（伊藤 剛） 水城駅・口無線につきましては、令和元年度、移転補償のほうをまず進めまして、令和元年度と今年度令和2年度とで建物移転等の補償をしながら移転をしていただくという形で進めておりまして、来年度道路工事のほうに入りまして、完成をしていきたいというふうな計画で考えております。

こちらのほうの補償、補填及び賠償金2億3,000万円につきましては、移転対象の保育園さんに対する移転補償金の契約分の前金部分をお支払いしております。今年度、今現在建物を建てられて、そちらのほうで移転していただく準備として、今年度建物を建築されているところがございます。今年中に建物が完成する計画で、1月に入りましたら建物の解体等に入らせていただければいいところでお聞きしております。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 今回の関連ですけれども、建物移転補償のこのお話があったときに、今の保育園の建物を建て替えるという話で、今建ててある、工事されている園舎があるんですけども、そこは仮園舎で、今の建物を建て替えるときには一旦移ってもらって、新しく建ち上がったらまた戻って、仮園舎は潰すというような理解をしていたんですけども、そのようなことでよろしいでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 建設課用地担当課長。

○建設課用地担当課長（伊藤 剛） 昨年度の計画としましては、別の場所で建物を建てて、そちらに移っていただくというような計画で考えていらっしゃいましたが、地権者との協議の中で計画が変更になり、現在保育園さんの分園の隣の土地に、そちらに土地のほうを購入されたようで、そちらのほうに園舎を増築されて、そちらのほうに仮で今現在通っていらっしゃるお子様を移っていただく。その後、建物を解体されて、現在のところにまた新しく建物を建てられて、そちらにまた戻ってきていただく。今現在建築されている増築分につきましては、そのまま分園という形で残されるということでお聞きしております。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 今128人の定員で保育園に入っているんですけども、その子どもたちが一旦その仮園舎に入って、建ち上がるまでそこで生活をして、そして建ち上がったら、その128人はその園舎と新しいところに分かれるということですか。

○委員長（門田直樹委員） 建設課用地担当課長。

○建設課用地担当課長（伊藤 剛） その点に関しましては、ちょっと私どもも把握しておりませんので、どうしましょう。

○委員長（門田直樹委員） 都市整備部長。

○都市整備部長（高原 清） その点に関しましては、もう保育園さんの運営に関わることでございますので、こちらがそこまで詳細に口出しすることはできませんし、把握もちょっと今しておりません。具体的な計画は、まだ現時点でどうなっているのかというのはちょっと分かりません。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 仮園舎ができて、そこにお子さんが入って、建物が小さいから、今の状況で密になって危ないんじゃないかというようなお話とかがちょっとちらほら聞こえてくるんですけども、128人が入るという前提で仮園舎を建てられて生活できるということの理解だったので、市のほうは関与しないというふうには言っていますけれども、一定認可保育園ですので、ちょっと担当が替わるのかもしれないけれども、移転費用を出しているということでの保育園との連絡ですよ、公費を投入しているという前提で、市民の皆さんに説明が

つく事業をしていただくというところではどのようにお考えなのかというのは、さっき部長が関与はできないとおっしゃいましたけれども、その点はいかがなんでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 都市整備部長。

○都市整備部長（高原 清） 運営に関しましてですので、ちょっとうちの都市整備部のほうは直接的にはタッチはしておりませんが、話には聞いている限りでは、保護者の皆様に対しても今回の移転計画について説明会等を園のほうで実施をされて、説明をされたということでお聞きしております。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですね。

ほかにございませんか。

木村委員。

○委員（木村彰人委員） 決算書209ページ、審査資料が13ページです。細目240の道路橋梁新設改良費について、審査資料として補助対象路線の進捗状況について資料をいただきました。まずこれ、1点目にお伺いしたいのは、今のところこれ4路線が上がっているわけですが、この4路線が本市が整備すべき最重要路線と考えてよろしいか。

○委員長（門田直樹委員） 建設課長。

○建設課長（中山和彦） 今現在進めております最重要路線と考えて、補助をもらいながら進めているところです。

○委員長（門田直樹委員） 木村委員。

○委員（木村彰人委員） この一覧表の中の4路線についてですが、3路線はかなり進捗が進んでいるように見受けられます。進捗率としては、この3路線が70%以上の進捗率ということですが、この完了予定年度と、あと少し、これ何がそれぞれ残っているのかをご説明ください。

○委員長（門田直樹委員） 建設課用地担当課長。

○建設課用地担当課長（伊藤 剛） まず、水城駅・口無線につきましてですが、こちらにつきましては、支障物件が2件残っておりまして、1件現在契約が済んでおります。もう一件につきましては交渉中でございます。今年度移転を完了させまして、令和3年度に工事が完了する計画で進めております。

続きまして、都府楼団地5号線につきましては、JRの市の上踏切、そちらの工事のほうを今年度予定しておりまして、令和2年度で完了予定になっております。

○委員長（門田直樹委員） 建設課長。

○建設課長（中山和彦） 青葉台1号線なんですけれども、これにつきましては1号線としましては、本年度完了予定であります。ただし、長浦台の変則5差路ですね、あちらのほうまで行くのに長浦台49号線というのがありますので、計画といたしましてはその路線につながっていくような形で考えております。それにつきましては、来年度また工事開始ということになるのか

と思います。

○委員長（門田直樹委員） 建設課用地担当課長。

○建設課用地担当課長（伊藤 剛） すみません、続きまして関屋・向佐野線につきましてですが、こちらにつきましては本年度測量設計のほうを行いまして、令和3年度、来年度物件の調査を行います。令和4年度に移転と道路工事ということで、令和4年度完成を目標に進めていく予定にしております。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

木村委員。

○委員（木村彰人委員） これ別件なんですけれども、同じく決算書209ページ、審査資料14ページです。細目は241生活道路改良費についてお伺いします。

審査資料のほうなんですけれども、各自治会からの要望された市営土木について資料をいただきました。要望内容、件数、実施済みと未着手、積み残しですね、件数の一覧表をいただいたわけなんですけれども、まず1点目、自治会ごとの実施件数、着手のほうに結構差があるように見受けられます。44自治会中、実施率の高いところ、80%から100%のところは約15自治会、実施率の低いところ、ゼロ%もあります。ゼロ%から29%のところは8団体。差があるんですけれども、またこの差はどういうところから出てきているんでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 建設課長。

○建設課長（中山和彦） 今回出させていただきましたものにつきましては、件数ということで出させていただいております。全体でいいますと、398件のうち施工させていただいたのが206件ということでなろうかと思えます。その中には舗装、あと側溝の取替え、あとカーブミラー、ガードレール、区画線の要望等々、自治会で生活の中で必要と思われるものが出てきております。

実際流れといたしましては、年度末に要望書を出しまして、自治会のほうから5月、6月ぐらいいに出させていただいて、あと担当のほうで、まず工務係と維持管理係のほうで現場を見た上で、あと自治会長等立会いの下、いろいろ要望の順序といたしますか、必要な順番を決めていただいているところではあります。

ただ、私どもとしましては、まずは生活道路の安全ということを考えておりますので、そこにつきましては市としての考え方も自治会長にお話ししながら決めさせていただいておりますので、どうしても、なるべく均等ということも考えておりますけれども、やはりまず安全を大事にということで考えた結果がこういう形になっている次第です。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 木村委員。

○委員（木村彰人委員） もちろん緊急性とか、軽微なものについてはもう待たなしで着手できると思いますけれども、ちょっと事業費がかかるものとか、他自治会と比べて横並び、非常に

微妙な判断が出てくると思うんですけども、そこら辺の着手の順番というのは何かルールがあるのでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 建設課長。

○建設課長（中山和彦） そうですね、金額的に自治会要望の中で相当な金額がかかる分につきましては、もう市営土木の域をちょっと外れますので、その分につきましては市のほうでの、どうしても必要ということであれば、市の予算の中でとか、次年度要望という形でさせていただいているのが現状です。

やはり予算を有効に使うために、自治会と協議しながらやっていってはいますけれども、やはり要望を上げられたものの未施工になっている分は当然出てきていますので、そこはなるべく努力しながらやっていっているところではあります。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 木村委員。

○委員（木村彰人委員） 重要な路線であるということと、経費がかかるものについては、先ほど市の重要路線、ああいうほうに上がっていくというふうに解釈してよろしいんだと思いますけれども、最後です。未着手がかなりあるようですけれども、これの今後の対応、来年度以降の対応について、もうちょっと詳しくご回答いただければと思います。

○委員長（門田直樹委員） 建設課長。

○建設課長（中山和彦） そうですね、例えば昨年度未着手だったところをまた次年度に自治会長さんも上げてこられると思いますので、そういう中でまた優先順序を決めながらやっていっております。今のところそういうことでの回答しかできません。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですね。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、208ページの3目地域交通対策費、ページがずっと行きまして213ページまでですね。質疑はございませんか。

長谷川委員。

○委員（長谷川公成委員） 209ページの090交通安全推進費のところの交通安全指導員さんの件なんですけれども、上限の人数と現在の人数を教えてください。

○委員長（門田直樹委員） 防災安全課長。

○防災安全課長（白石 忠） 定員数の増減ということで、頭打ちはございませんが、おおむね25名程度の確保に向けて進めております。令和元年度中で21人ということになっております。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 長谷川委員。

○委員（長谷川公成委員） ちょっと言い方が悪いけれども、高齢の方がかなり目立つようになってきて、なかなか増えていってないのかなというふうに思っています。

できたら何かそういう呼びかけですね、自治会等に出向いて行って、何か周知等々を行われたいんじゃないかなと思っていますので、これは要望なんで、今後交通安全指導員さんが増えて、地域が安全であることを祈っていますので、よろしくお願いします。

○委員長（門田直樹委員） 防災安全課長。

○防災安全課長（白石 忠） 今おっしゃられたように、確かに高齢化が進んでおまして、隣組回覧を2月頃にさせていただきまして、新規募集を行っております。ただ、なかなか募集の応募が少ないような状況でございます。また、高齢ということも含めて、体調不良で途中で辞退される方もいらっしゃいますが、今年度令和2年度は2名新規で加入をいただいております。今後機会あるごとに呼びかけをしていきたいと思っております。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 藤井委員。

○委員（藤井雅之委員） 211ページの渋滞対策費について、主に事務報告書の49ページで質問させていただきますけれども、ライブカメラの設置をされたということで事務報告書に上がってきておりますけれども、決算書を見ますと、そのライブカメラ等に関する維持費的なものはどういうふうな処理でされているのかお聞かせください。VICSの保守委託料というのは上がってきているんですけれども、そこら辺のところをもう少し詳しくご説明をお願いします。

○委員長（門田直樹委員） 都市計画課長。

○都市計画課長（竹崎雄一郎） ライブカメラの維持管理につきましては、駐車場案内システム委託料、241渋滞対策費、13節の駐車場案内システム委託料の中で維持管理のほうを行わせていただいております。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、212ページ、3項河川費について質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、同ページ、4項都市計画費、1目が217ページまでですが、1目の都市計画総務費について質疑はありませんか。

木村委員。

○委員（木村彰人委員） 決算書の215ページ、審査資料が15ページです。細目221の歴史的風致維持向上計画推進費の中で、13節の委託費と15節の工事費についてお伺いします。

いただいた審査資料としては、歴史まちづくり関連業務、工事の業務実績が分かる資料としていただいたわけですが、これ、文章の表現ではなかなかイメージが分かりにくいところがあります。

そこで、まずお聞きしたいのは、特に工事については、これは総額が約1億1,700万円と金

額が多いわけでありまして、その完成実績がすごく気になるところです。せめて1,000万円以上の工事については分かりやすい図や写真等で、議会だけではなく、市民に向けても情報発信が重要になってくると思うんですけれども、例えば広報で特集するとか、完成状況を現地説明会とかで説明するとか、そういう取組についてはどのようにお考えでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 市長。

○市長（楠田大蔵） 本来、4月の時点で完成をして、お披露目の計画をしていたんです。ただ、新型コロナウイルスの影響で中止をせざるを得なくなりまして、残念ながらそうしたお披露目の機会を今までできていないところであります。

そうしたところ、やはり来年3月、史跡指定100年のちょうど節目を迎えますので、何とかそのときまでに新型コロナウイルスの影響が収まって、様々なシンポジウムなどもしたいと思っておりますが、その際に改めてこの客館跡、せつかくの貴重な史跡でありますし、かなりの金額をかけてしつらえもさせていただきましたので、改めてそうしたときにお披露目ができればとまず思っております。

加えまして、やはり市報などで完成図なども今までも既にお出ししておりますけれども、もう少し市民の方に分かりやすく、そうした場でお伝えをしていくことも重要でしょうし、なかなか目立っておりませんが、それぞれ市民など、子どもたちにも参加をいただいた説明会などは随時行っていただいているところであります。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 215ページの13委託料の歴史まちづくり関連業務委託料なんですけれども、事務報告書の114ページで、これ委託事業が3つあって、そのうちの一つに四王寺山の環境保全活動促進事業業務委託というのがあって、これ40万円のまほろば自然学校さんに委託をしているというふうに報告がされているんですけれども、この委託の内容について、この歴史まちづくりとどういう関係があってここに入ってあるのかということをご説明お願いいたします。

○委員長（門田直樹委員） 都市計画課長。

○都市計画課長（竹崎雄一郎） 四王寺山の環境活動促進支援業務委託でございますけれども、まほろば自然学校さんのほうに業務委託をしております、この事業が歴まち事業の補助の対象ということで、そちらの関連で歴まち事業のほうで委託をさせていただいております。

内容につきましては、今四王寺山の環境活動というところで、委託もしかりですけれども、民間の方と行政機関のほうでハード面、ソフト面等々の問題解決に向けて、このまほろば自然学校さんのほうに委託をしまして、そこら辺のつなぎというところで、今後市民の皆様と一緒にこの活動、維持する活動というところを続けていきたいというところで、そのつなぎの役目といたしますか、ワークショップを開いていただいたりというところで、今委託をさせていただ

いているところでございます。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） まほろば自然学校さんが活動されているのが、市民の森で活動されているのをちょっと見たりしたことがあったんですけども、そういう意味では市民の森の事業費が農林水産費のところにあると思うんですけども、そちらとは別というような考え方でよろしいんでしょうか。今のところは別ということです。

○委員長（門田直樹委員） 都市計画課長。

○都市計画課長（竹崎雄一郎） 予算的には別になっております。このまほろば自然学校さんに委託しているのが、ネットワーク化とかワークショップとか出前講座ですね、そちらのほうのいわゆるソフト面といいますか、そちらのほうが主になってくる場所です。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 野外活動を期待されている市民の方もいらっしゃるんで、こういう歴まちの部分と、あと市民の森の活用というところを少しリンクさせるような形で、横つながりをつくっていただきたいと思いますと思うので、それを要望しておきます。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 橋本委員。

○委員（橋本 健委員） 215ページの委託料で、政庁前駐車場管理業務委託料、まずその具体的な業務内容を教えてください。

○委員長（門田直樹委員） 都市計画課長。

○都市計画課長（竹崎雄一郎） 大宰府政庁前駐車場管理業務委託ということで、一昨年完成いたしました政庁前のバスの駐車場でですね、こちらの管理業務委託のほうを昨年の6月1日から機械式の駐車場、バス11台の料金徴収の部分を委託しているところでございます。5年契約で長期契約させていただいているところでございます。

委託の内容は以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 橋本委員。

○委員（橋本 健委員） これ、大型駐車場をつくっていただいて本当によかったと思うんです。といいますのは、坂本八幡宮までの動線ができました。観光あるいは参拝のためですね。お客様も非常に増えておまして、これまでコロナでちょっと閉鎖中でしたけれども、土曜から開所したと、八幡宮を開けましたよということですので、これからはまたぼちぼち観光客の方もお見えになるだろうというふうに思います。

昨年の6月からこの大型駐車場をスタートしたわけですけども、昨年度の駐車台数ですね、どの程度あったのか。もし収入も分かれば教えていただきたいと思うんですが。

○委員長（門田直樹委員） 都市計画課長。

○都市計画課長（竹崎雄一郎） 昨年の駐車台数でございますけれども、合計で令和元年6月1日から令和2年3月31日までで2,665台、内訳といたしまして大型バスが1,426台、マイクロバスが1,239台となっております。収入につきましては、合計で446万2,700円、うち歴文税が108万4,700円となっております。歴文税を除きまして337万8,000円となっております。一番多かったのが11月ですね。秋の行楽シーズンが一番多くご利用いただいております。11月が635台のご利用をいただいているところでございます。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 橋本委員。

○委員（橋本 健委員） これはぜひ、太宰府の収入源としてもこれから大事なところになるといふふうに思いますので、ぜひまた大いに復活することを希望しております。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） 215ページ、230都市計画事務費、13委託料、空家等調査委託料、事務報告書の115ページですかね。これ空き家等の調査で、例えばA、B、Cあたりで本当に倒壊寸前なところとかの調査かと思ったんですが、よく読んだら周知に関する取組云々って書いてあるんですけども、この内容を少し説明していただいてもいいですか。

○委員長（門田直樹委員） 都市計画課長。

○都市計画課長（竹崎雄一郎） こちら、平成29年から3か年にわたって、地方創生推進交付金を活用いたしまして、太宰府市の空き家総合窓口、空き家対策の中で、昨年空き家計画のほうを策定させていただきましても、窓口を市役所のほうに設置をしまして、今後の活動等、空き家の窓口等々の取組等々を推進していくための方策として、推進するための業務委託ということで委託をさせていただきました。

一部、シンポジウム等々もちょっと検討といたしますか、計画していたんですけども、こちらのほうがコロナの影響が開催ができなかったというところではございますけれども、内容としては空き家の窓口等々を市民にお知らせするような推進をするための委託ということで委託させていただきました。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） ちょっとよく分からないんですが、イベント的な周知と一緒に、相談窓口としても機能するという捉え方でいいんですかね。相談件数がじゃあ何件あったとかという報告はあっているんですかね。

○委員長（門田直樹委員） 都市計画課長。

○都市計画課長（竹崎雄一郎） すみません、こちらの窓口推進委託の中で、全て空き家の相談件数を受付をしていた業務ではないので、昨年の数値的なものは今持ち合わせてございませんけれども、空き家の窓口をお知らせするといえますか、周知するための委託という形になります。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） よく分からないんですけども、イベントも行ってないということで、結局何をやってあったんですかね。ちょっともう一回。

○委員長（門田直樹委員） 都市計画課長。

○都市計画課長（竹崎雄一郎） すみません、説明がうまくできませんで申し訳ございません。

空き家相談窓口、空き家予防推進協議会という任意の団体が設置いただいておりますので、そちらのほうとのつなぎと、そちらの取組等も含めてお知らせをするという、市民に向けて啓発をするというような業務でございます。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員、どうされます。

（「休憩」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） ここで20分まで休憩します。

休憩 午後2時11分

~~~~~ ○ ~~~~~

再開 午後2時20分

○委員長（門田直樹委員） それでは、再開いたします。

都市整備部長。

○都市整備部長（高原 清） 先ほどご質問がありました空家等調査委託料につきまして、私のほうから説明をさせていただきます。

こちらにつきましては、先ほど都市計画課長が説明しましたとおり、主に市民向けの啓発等が一番の目的ということなんです。具体的には都市計画課のほうに昨年、空き家予防推進協議会のほうからお一人、人を実際に派遣といいますが、配置していただきまして、相談窓口を設置しておりました。そちらのほうの協議会、それと市との連携等に、こちらのほうの委託料で啓発のためのプランニング等も実施していただいたというところでございます。

それと、先ほど都市計画課長が申し上げましたとおり、年度末に啓発のためのシンポジウム等を計画して、その準備をしておりましたが、ただ新型コロナウイルスの関係でこれが急遽中止ということになりましたので、ただしそれまでにかかった経費ということについては、実際にかかった経費については、これはもう返金なしということで、先ほど申し上げた国の補助金、地方創生交付金、そちらのほうの所管のほうにもそれを確認いたしまして、急遽中止になった分については経費の返還は必要ないということまで確認はしております。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

○委員（小島真由美委員） 違うところがあるんですが。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） 217ページの232ブロック塀等撤去促進事業費、これ時限的な事業だと

思うんですが、この決算でもう終わりになる事業なんですかね。ブロック塀の撤去等の内容的なことはもう大体終わったんですかね。

○委員長（門田直樹委員） 都市計画課長。

○都市計画課長（竹崎雄一郎） ブロック塀の撤去の補助金につきましては、昨年度始まった事業でございます、今後もまだ継続して行われていく事業でございます。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） しばらくはこの事業は継続ということよろしいですか。ありがとうございます。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 進みます。

216ページ、2目公園事業費、219ページの前までですね。2目について質疑はありませんか。よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、ページめくっていただいて、3目、4目、下水道事業費と土地開発費について質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、同ページ、5項住宅費、1目住宅管理費、221ページまでですが、質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、220ページ、9款消防費に入ります。

1項消防費、1目常備消防費、2目非常備消防費について質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、222ページの3目消防施設費について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、4目災害対策費、225ページまでですが、質疑はございませんか。

神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 災害が起きたときの自治会の動きに関する事なんですけれども、地域にいらっしゃる幼児を持たれる家庭の把握がうまく機能してないんじゃないかというお話をちょっときたんですけれども、そこら辺は、高齢者の方とか障がいがある方というのは台帳なりできちんと整理をされていると思うんですけれども、小さいお子さんをお持ちの家庭への連絡だったりとか目配りだったりとか、そういうところは自治会のほうとの連携は取れている

んでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 防災安全課長。

○防災安全課長（白石 忠） 今ご指摘いただきましたように、要支援者の登録につきましては、なかなか今の状況から更新がされていないということがありまして、今年度そちらの支援者制度について、情報を一定こちらのほうで関係部課と集めまして、まずは登録者の更新と、それと呼びかけを進めていこうということで考えております。

○委員長（門田直樹委員） 神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 幾つかの自治会の会長さんに聞いたんですけども、お子さんが生まれたというのがなかなか連絡が入らない、確認ができないというようなお話があったので、そこら辺は地域コミュニティ課との調整とかあるのかなというふうには思うんですけども、災害が起きたとき、起きる前の避難するなどのタイミングですね。ちょっと早めにお子さんを連れて出ないといけないということになりますので、そこら辺の手だて、援助者もやっぱり必要になるというところでは、ちょっと不安な声も聞いていますので、その点も併せて検討していただきたいなというふうに思います。

○委員長（門田直樹委員） 防災安全課長。

○防災安全課長（白石 忠） 確かに1つは、情報の更新が進んでない理由が、どうしても個人情報の絡みがございます、例えば身障者の手帳を持っていらっしゃる方、それとお子さんが生まれた情報を周りに教えたくないという方もいらっしゃるので、なかなかその情報を把握して伝えていくところが大きな課題ということで、進んでない現状でございます。

その情報を踏まえて、例えば同意をしていただける方であれば、一定情報を自治会のほうに共有するとか、情報をいただいた中で、同意をまずいただくところで進めていければということ、まずはできることから一步步進んでいきたいと思っております。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、224ページ、10款教育費に入ります。

職員が入りますので。

それでは、1項教育総務費、1目、227ページまでですね。1目について質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、226ページ、2目事務局費、ずっと行きますと233ページまでですね。2目についての質疑はございませんか。

木村委員。

○委員（木村彰人委員） 231ページ、細目160太宰府市文化スポーツ振興財団関係費の3,257万9,000円についてお伺いします。

令和元年度の同財団の市監査結果報告によりますと、余剰金、これ現金預金等ですけれども、速やかな解消が必要だとの記述がございました。そこで、市も財団のほうも共通認識があるというところでなんですけれども、平成28年度末にはこの余剰金ですけれども、1億円以上あった現金預金ですけれども、少しずつではありますけれども、経営の中で減少しつつありますけれども、何と令和元年度に解消できた余剰金は僅か500万円でありました。そこで、令和元年度末の同財団の余剰金が8,869万円あるわけですけれども、それを踏まえて令和3年度予算におけるこの財団の補助金の減額方針についてお伺いします。

○委員長（門田直樹委員） 文化学習課長。

○文化学習課長（花田敏浩） 財団の補助金でございます。財団の会計自体はご存じのとおりだと思いますが、公益財団法人ということで、マイナスもしくはゼロベースでということが原則ということになっております。そういった状況を踏まえまして、財団の補助金の在り方というものも、今後財政当局のほうと検討を行っていきたいというふうに考えております。

○委員長（門田直樹委員） 木村委員。

○委員（木村彰人委員） そうですね、この補助に対する減額の姿勢というのが、一応令和2年度の予算には反映しているようではありますけれども、令和2年度の市補助金の額は約300万円減の2,962万3,000円だったと思いますけれども、この余剰金の額を見ると、かなり大きな余剰金が残っていると思われまので、もうちょっと踏み込んだ余剰金の削減策というところで、これ令和3年度予算に反映させていただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 文化学習課長。

○文化学習課長（花田敏浩） 今後そのような形でも、検討をまず行ってということになるかどうかと思います。

○委員長（門田直樹委員） 木村委員。

○委員（木村彰人委員） そうですね。もう一つ、これが監査の審査意見書のほうにも、これ令和3年度の予算を見据えたところで、監査委員のほうからも、今後非常に厳しい難しい行財政経営が強いられていくことになるというふうにコメントがありますわけですから、この補助金についてはしっかり内容を見直したところで検討していただきたいと思っております。要望です。

○委員長（門田直樹委員） ほかにございませんか。

橋本委員。

○委員（橋本 健委員） 231ページ、不登校対策費で07節の賃金ですけれども、適応指導教室指導員698万円、それから931万円、619万円、この3つ、それぞれ何人で仕事をされているのか教えてください。

○委員長（門田直樹委員） 学校教育課長。

○学校教育課長（鳥飼 太） お答えいたします。

07賃金の適応指導教室の指導員さんですが、令和元年度は3名の指導員で指導しておりました。給与的には4名にお支払いしておりますが、実質的には3名で指導いただいております。

続きまして、不登校対応専任教員でございますが、こちらは各中学校に1名ずつおりますので、4名でお仕事をしていただいております。

それから続きまして、スクールソーシャルワーカーでございますが、こちらは週4日、2名の先生に勤務をしていただいているところでございます。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 橋本委員。

○委員（橋本 健委員） それで、スクールソーシャルワーカーですけれども、週4日、これは小学校、中学校の配置状況が分かりましたら教えてください。

○委員長（門田直樹委員） 学校教育課長。

○学校教育課長（鳥飼 太） 主に中学校区を、2名の先生で2中学校区ずつを担当しております。必要などときには小学校、要請があれば小学校のほうにも出ていただいて対応していただいているところでございます。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 227ページ、学校教育運営費の一番下の特別支援教育支援・専門員に関連してですけれども、審査資料の16ページで学級支援員の研修回数と内容をということで資料請求させていただいたんですけれども、この研修が7月19日の1回、1時間半行われたというふうなことで、内容は指導主事の先生のお話があるようですけれども、太宰府市の特別支援学級の支援員さんって、すごく充実していて、県内でも多く配置されていて、羨ましいというようなお話をよく聞くんですけれども、支援員さん自体が教員免許がなくても従事できるということで、実際免許がなくて、子育てをしながらその支援員さんとして働いているという方も結構いらっしゃるというふうにお話を聞いています。そこから自分の子育てを通して支援に関わっているというようなことも聞いているんですけれども、実際の専門的なところでの関わり方だったりとか、支援児の特性だったりとかはきちんとやっぱり知っておく必要があるのかなと、また今の教育環境も含めてというところでは、年1回の研修ではちょっと足りないのかなというふうにも思いますし、当事者の支援員の方からも、もう少し意見交換ができたとか、体験交流みたいなことができたとかというお話もありますし、担任の先生との話も少し密にしたいというようなことも聞かれていますけれども、今後の対策としてはどういうふうなことを考えられているのか、あればお聞かせ願いたいと思います。

○委員長（門田直樹委員） 学校教育課長。

○学校教育課長（鳥飼 太） 委員さんがおっしゃるように、年に1回の研修ということで、少ないんじゃないだろうかということでございますが、日々の業務の中で毎日、特別支援学級の先生方と日々の業務の打合せ、それから個々のお子さんの状態であるとか、そういったことを密に連絡を取り合っているところでございます。また、おっしゃるように、支援員さん方の意見交換、

それから情報交換というところで、そういった機会も必要ではなかろうかとは考えておりますので、今後検討させていただきたいと思います。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 教育部理事。

○教育部理事（堀 浩二） 今のに補足いたしますけれども、これも本市の独自の取組なんですけれども、各学校を年2回、本市の特別支援教育の担当の指導主事が学校を回って、授業を見て指導するというのを年2回行っております。その中で支援員さんの取組ということで指導を行うということも行っておりますし、本年度それを取りまとめたQ&Aのようなものをつくっておりますので、こちらでも充実させていきたいと思いますが、先ほどの担任の先生との意見交換等については、参考にさせていただきたいと思います。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 支援員さんも市内異動があったりとかということで、関わり方だったりとか指導方法がちょっと違うというようなところで、戸惑われたりすることもあるというようなふうに聞いていますので、やはり教育を受けるというところでは、どの学校に行っても同じような教育がされているというところでは、支援員さんの役割をきちんとはっきりさせていただきたいなということで、研修の充実をお願いいたします。

○委員長（門田直樹委員） ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、232ページ、3目人権教育費について質疑はございませんか。

神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 233ページ、110南児童館指導事業関係費のところなんですけれども、事務報告書の51ページです。51ページの下のところ南児童館指導事業関係費、1南児童館事業ということで、参加状況が表にしております。4月から3月まで人数が書いてあるんですけれども、この児童館、3月も参加人数上がって、毎月と同じような数字が上がっているんですけれども、コロナ禍の中で公共施設が閉鎖されている中で、ここは開館されていたのかということをお聞きしたいのと、それから次のページですね、52ページのスクール活動の内容が下の一覧表あるんですけれども、小学生のところ、これ子ども会活動になると思うんですけれども、下のほうに3月25日から3月31日まで、これ春休みの活動になりますが、これもコロナ禍の中で、なかなか子どもたちが外に出れないというような状況の中で、外に出かけているというようなことだと思うんですけれども、その点でどのような判断をされたのかということをお聞きしたいと思います。

○委員長（門田直樹委員） 社会教育課長。

○社会教育課長（木村幸代志） 今年の3月になりますが、公共施設はおおむね閉館になっておっ

たんですが、南児童館につきましては、設置条例で人権センターという位置づけをされておるところから、単に遊び学習の場だけでなく、生活そのものの指導、支援というところもありまして、3月も館のほうは開館しておったという状況です。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 何度も南児童館を全市の子どもたちに開放してほしいということをお願いしているところですが、生活指導も含めての施設として開館していたところで、この施設自体の活用、それから事業の方針について、やはりきちんともう一度検討していただきたいと思います。

このコロナの中で、さっきちょっと申し上げましたけれども、家の中に閉じ籠もっていたというような子どもたちもいますし、親との関係がなかなかうまくいかずに、家の中でいろいろなことが起きているというような閉鎖的なことも聞いていますので、そこら辺を解消する意味でも、子どもたちに同じような環境をつくってあげるという視点で検討をお願いしたいと思います。要望です。

○委員長（門田直樹委員） ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 234ページ、4目特別支援教育費について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 同ページ、5目幼稚園費、次までですが、質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 236ページ、2項1目学校管理費、ずっと行きますが、241ページまでですね。併せて2目教育振興費まで含めまして、2項小学校費について質疑はございませんか。

長谷川委員。

○委員（長谷川公成委員） この決算書には載ってないんで、恐らく別会計だと思います。小学校、中学校でちょっと併せてお尋ねしたいんですが、修学旅行、今年度まだ開催されてないんですね、小学校も中学校も。数週間前だったかな、県のほうから修学旅行生に対する、これ小・中学生のあれなんですかね、県からの補助が出る的なニュースが流れていたんですが、教育委員会としてはどのような対応をされるのか、お尋ねいたします。

○委員長（門田直樹委員） 学校教育課長。

○学校教育課長（鳥飼 太） このコロナ禍の中で、学校のほうも修学旅行について様々な検討をされているところでございます。ただ、子どもたちの最大の思い出といいますか、大事な学習の場である修学旅行については、ぜひ実施していただきたいというふうに考えております。

それで、今のところそういった形で進めていく予定でございます。それで、最終日の18日の全員協議会の中で提案させていただきまして、議員の皆様詳しくご説明させていただきたい

と思います。

以上でございます。

○委員（長谷川公成委員） ありがとうございます。

○委員長（門田直樹委員） ほかにございませんか。

笠利委員。

○委員（笠利 毅委員） 239ページの小学校管理運営費、13委託料、電算委託料のところを伺います。

事務報告書によると、この97万8,000円のうち、東小学校のタブレットの保守に65万4,000円というふうになっていたかと思います。今年からタブレットが、今年というか、もうすぐたくさん入ってくることになるわけですけれども、学校のタブレットの保守の費目というのは、この東小にしか出てきてなかったの、今までほかに、ほかの学校や中学校なりで継続的にタブレットによる教育実践というのが行われていなかったのかというのがまず1つですね。

それと、東小学校でタブレットを試験的という表現でしたかね、ずっとやっていたはずなんですけれども、当然保守委託をしているぐらいなので、使い方のほうでも何らかの注意を払ってきていたと思いますので、それが今後に生きると思うので確かめておきたいんですけれども、東小学校で教師なり生徒なりが使うに当たって、何らかのガイドラインを設けていたとか、この点は守って使いましょうとか、そういうことをしてきたのかということ伺います。

○委員長（門田直樹委員） 学校教育課長。

○学校教育課長（鳥飼 太） 当然高価な備品でもございますので、子どもたちには十分注意して使っていただくようにということで、先生方からご指導いただいているところでございます。

それで、この保守につきましては、東小学校に先行的に導入させていただいておりますので、そちらの委託料ということで計上させていただいておりますが、その後、先生方のタブレット等もパソコン等も導入したので、ほかの費目でそういった保守関係の予算というのは計上させていただいているところでございます。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） 笠利委員。

○委員（笠利 毅委員） ということは、生徒に持たせるような形でというのは、ほかのところでは今までしていなかったという理解でよろしいんですね。

○委員長（門田直樹委員） 学校教育課長。

○学校教育課長（鳥飼 太） 順次導入をしていっておりますので、全く使っていないわけではございません。導入ができたところについては、積極的に使っているという状況でございます。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 笠利委員。

○委員（笠利 毅委員） これは要望というか希望というかなんですけれども、これから全ての学校で全ての生徒が持つという形になっていけば、当然保守のためにもよりよい使い方、より適切な使い方ということをしていかないといけないと思いますし、無駄に使ってもしようがないし、また様々な心配事も出てこようかと思うので、健康、安全面も含めてですね、よその自治体でガイドライン等を検討中というところを幾つか聞いていますので、本市でも先生サイドでも生徒の側でも、このようにしっかり正しく安全に使っていこうというふうにしていただけたらなと思います。これは要望だと思って、お願いします。

○委員長（門田直樹委員） ほかにございませんか。

小島委員。

○委員（小島真由美委員） 241ページで、小学校給食食材費補助金のところでちょっと聞くかなと思ったんですが、給食費については、私会計なので議会のほうには上がってこないですね。約20億円超してあると思うんですが、例えば全学校が未納者がどのくらいなのかというのは、ちょっとまた数字が今出なければ後で結構なんですけど、今現在、児童手当からの引き落としに全学校がなっているのかどうか教えてください。

○委員長（門田直樹委員） 学校教育課長。

○学校教育課長（鳥飼 太） 給食費の未納額というのは、ちょっと今、すみません、手元に持ち合わせておりませんが、割合でいきますと1%を切る程度でございます。

それから、児童手当からの引き去りの件でございますが、こちらは実行できております。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） 教師の方々の教職員の働き方改革でも一番負担にもなっているということもご指摘は以前しておきましたけれども、この給食費の公会計化について少し話は進展されているのか、お聞かせください。

○委員長（門田直樹委員） 学校教育課長。

○学校教育課長（鳥飼 太） 給食費の公会計化につきましては、現在学校の事務の先生方で組織してあります共同学校事務室の中で今後進めていくというところで、協議を進めているところでございます。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですね。

村山委員。

○委員（村山弘行委員） 237ページの小学校管理費の07賃金のところでちょっとお尋ねしますが、私の認識で間違いがなければ、今調理員さんは直営自校は1校かなと思うんですけれども、6校の調理業務の委託先と、今すぐじゃなくてもいいんですが、学校配置調理員さんの配置人員について分かれば教えてほしいし、今すぐじゃなければ、後日でも構いません。

○委員長（門田直樹委員） 学校教育課長。

○学校教育課長（鳥飼 太） 委託先でございますが、水城小学校、太宰府西小学校、国分小学校につきましては中村学園の事業部、それから太宰府小学校につきましてはハーベストネクスト株式会社でございます。太宰府南小学校につきましてはシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社、それから水城西小学校につきましては日本国民食株式会社でございます。

それから、それぞれの配置人数でございますが、具体的にどこの学校が何人というのは持ち合わせておりませんが、おおむね7名から8名の方で調理をしていただいているところでございます。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） ほかにございませんか。

木村委員。

○委員（木村彰人委員） 決算書239ページ、審査資料は17ページです。13節の委託料、水泳指導業務委託料についてお伺いします。

この水泳指導の外部委託については、令和元年度より始まった新たな事業だと思いますけれども、全校実施ではなくて、7校中2校を実施というところでありまして、いただいた資料については、業務委託をしている2校とそれ以外の5校の指導時間数の違いをちょっと見たかったものですから、いただきました。

お伺いしたいのは、資料中、指導時間について、業務委託を行っている2校と自校実施の5校の間に指導時間の差があるように思います。また、それだけじゃなくて、自校実施の5校の間でも指導時間に結構ばらつきがあるんですけれども、この理由は何かというところで、これについて学習指導要領上、何か支障とかはないのかお伺いします。

○委員長（門田直樹委員） 学校教育課長。

○学校教育課長（鳥飼 太） 指導時間のばらつきということでございますが、確かに資料上、一番多いところで18時間で9回ということで、最少で3回で7.5時間ということになっておりますが、こちら、まず委託の分につきましては、それぞれの委託事業者との調整によって、あと当然、もちろん学校の先生方とも協議した上で決めさせていただいているところでございます。このようにそれぞれ学校によって指導時間が違いますので、これについて、それぞれの学校の事情に応じて時間というのは設定させていただいているところでございます。

それから、学習指導要領上、問題がないのかということでございますが、この時数というのが明確に何時間以上ということが定められてはおりませんので、問題はないというふうな認識でおります。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 木村委員。

○委員（木村彰人委員） じゃあ、参考ですけども、業務委託を行っている2校、それを広げていく方向だと思いますが、令和3年度以降の方針について、よろしければお伺いしたいと思います。

○委員長（門田直樹委員） 学校教育課長。

○学校教育課長（鳥飼 太） 令和2年度につきましては、太宰府小学校をお願いする予定でしたが、コロナ禍の関係で実施ができませんでした。令和3年度につきましては太宰府小学校も追加できるものと考えております。それ以外の学校につきましては、今後、例えば市民プールの活用ができるのかどうか、それから他の民間事業者のほうの枠が広げられるのかどうか等を調査した上で、検討を進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、240ページ、3項中学校費、1目学校管理費にまずついて、247ページまでですね。すみません、2目も含めまして質疑はございませんか。

木村委員。

○委員（木村彰人委員） 決算書247ページ、13節委託料の中のふるさと・夢プロジェクト事業補助金、これ額は97万4,840円、小さいんですけども、この実績についてお伺いします。

○委員長（門田直樹委員） 学校教育課長。

○学校教育課長（鳥飼 太） お答えいたします。

まず、内容の詳細ということでよろしいでしょうか。

○委員（木村彰人委員） はい。

○学校教育課長（鳥飼 太） 各中学校、太宰府市の4中学校から代表者を募りまして、これは主に生徒会の役員さんでございしますが、多賀城市の中学校との交流というのが大きな目的でございます。中学校に出向きまして、歓迎会でございましてとかそういった歓迎を受けまして、交流を深めてきたところでございます。それから、もちろん多賀城の歴史、太宰府市とのつながり、そのあたりの学習も深めてきたところでございます。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですね。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、246ページ、4項社会教育費、1目社会教育総務費、251ページまでですね。1目について質疑はございませんか。

木村委員。

○委員（木村彰人委員） 249ページの、審査資料が7ページです。いきいき情報センターの管理運営費についてお伺いします。

まず1点目、令和元年度の生活学習センター等2階の部分の利用者数が、これ令和元年度は減少しているんですけども、これは1階のマミーズ撤退の影響があるのでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 文化学習課長。

○文化学習課長（花田敏浩） 人の流れから申し上げますと、そういったことも一つの要因である

うかと思っております。

○委員長（門田直樹委員） 木村委員。

○委員（木村彰人委員） 同じ施設に関連しまして、2階部分の生活学習センター等が利用者数が減少しているんですけども、それにもかかわらず、トレーニングジムのほうがこれ右肩上がりで利用者数が増えているという状況なんですけど、これについてはどういうふうなご見解を持っているのでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 文化学習課長。

○文化学習課長（花田敏浩） このトレーニングルームにつきましては、平成29年度からトレーニング機器の入替えを3か年かけて行っております。そういったこともありまして、トレーニング機器が新しくなって、トレーニングをしに来られる方もやや増えてきておるのかなというふうには推測しております。

○委員長（門田直樹委員） 木村委員。

○委員（木村彰人委員） トレーニングジムについては、施設の快適な利用可能な定員というのがやっぱり何かしら想定されると思うんですけども、そこら辺でこの右肩上がりの増加は支障はないですか。

○委員長（門田直樹委員） 文化学習課長。

○文化学習課長（花田敏浩） もう可能なところで推移しておるところだというふうには考えております。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

木村委員。

○委員（木村彰人委員） これは指定管理者及び利用者の意向とかを調査されているのかと。もし調査しているのであれば、そのご意見とかがあれば、ちょっとお聞きしたいところなんですけど。

○委員長（門田直樹委員） 文化学習課長。

○文化学習課長（花田敏浩） 財団のほうとは定期的にいろいろな協議を行う場、情報交換を行う場を持っておりまして、様々な要望、施設に関する要望等、話を聞きながら、細かいところから様々ございます。そういったところも解決しながら進めておるところではございます。

○委員長（門田直樹委員） 神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 251ページの160文化芸術振興費の委託料なんですけれども、主催事業業務委託料150万5,837円になっていますけれども、予算額が300万円ついていたと思うんですけども、減額分、何に当たるのかということをお教えいただきたいと思っております。

○委員長（門田直樹委員） 文化学習課長。

○文化学習課長（花田敏浩） 事務報告書の130ページにございます。一番上の枠になりますが、文化芸術振興事業の1つは太宰府カルコア寄席、そして2つ目がコメディ・クラウン・サーカスの委託料となっております。この下の段のコメディ・クラウン・サーカスの委託料につま

しては、令和2年、今年の3月に予定しておりまして、コロナウイルスの発生によりまして事業を中止という形にさせていただいております。

○委員長（門田直樹委員） 神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 決算額は150万円ですよ、2つの事業150万円で、予算額300万円だと思うんですけども、その差額について教えていただきたいんですけども。

○委員長（門田直樹委員） 文化学習課長。

○文化学習課長（花田敏浩） この先ほど申し上げましたコメディ・クラウン・サーカスにつきましては、当初予定しておりました予算がございまして、その分から一部この49万5,000円の委託料をお支払いいたしております。この49万5,000円と申しますのが、もともと出演するはずであった方の交通費相当分を、当日どうしても予定を押さえておかないといけなかったということで、49万5,000円について変更契約を結んでお支払いをしたという形になっております。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） ということは、このコメディ・クラウンさんが150万円、合計で200万円の予算になっていたということでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 文化学習課長。

○文化学習課長（花田敏浩） そういう形になります。申し訳ございません。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） 249ページの131いきいき情報センターの工事請負費で不用額が300万円ぐらい出ているんですけども、前もこれ言ったんですけども、台風でよく飛ばされなくてよかったなと思ったんですけども、折れなくてよかったと思ったんですけども、外にある看板ですよ、いきいき情報の、かなり老朽化が激しく、さびも外に出ていて、下手したら人災とか大きな災害、台風の突風とかで倒れる心配とかがないのか、いつも通るたび心配しているんですが、この不用額を出すんだったら改修してもらいたかったかなと思ったんですけども、あそこの看板の改修については何か話し合われていますかね。

○委員長（門田直樹委員） 文化学習課長。

○文化学習課長（花田敏浩） 以前からそういったご指摘をいただいております。ご指摘はいただいております、この撤去を含めてどうするかというお話はさせていただいておりますけれども、今回それを撤去するとか、そういったところまではいかなかったというところがございます。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） 今回、台風10号で、大きな台風にならなかったからよかったんですけども、やはり線路沿いですし、県道沿いですし、人が通る大通りに面しておりますし、また見かけも非常に悪いということなので、早急に考えていただきたいと思います。よろしくお願

たします。

○委員長（門田直樹委員） ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 250ページ、2目青少年教育費、253ページまでですが、質疑はございませんか。

長谷川委員。

○委員（長谷川公成委員） 251ページ、140成人式運営費ですが、今年度の開催がちょっとどうなるのかなというところがあるんですが、成人者に聞くと、1か所でやるよりも、例えば卒業した中学校の体育館あたりで開催してほしいという声を聞くんですね。ですので、今後、今年度は特になかなか人が多く集まることができないと思いますので、そういった検討をしてみたいかなと思うんですが、見解があればお願いします。

○委員長（門田直樹委員） 社会教育課長。

○社会教育課長（木村幸代志） 来年1月の成人式につきましては、本来ならプラム・カルコアで例年行っておるんですが、あそこが定員が600人なんですけれども、現状では300人しか収容できないということで、これは今後1月に向けて落ち着くかどうかというのは未定なところで、今現在、通常どおりのやり方はできないだろうということで、じゃあそれだったらあそこで2回に分けてやるとか、今委員おっしゃられたように中学校単位でやるとか、あと全く違う会場とかで、屋内はいろいろ制限がありますので、屋外も含めてそういったところでやるとかという内容で協議しております。成人者の実行委員会も組織しましたんで、またその代表者の意見も聞いて方向性を出したいと思っております。

○委員（長谷川公成委員） 分かりました。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかにございませんか。

徳永委員。

○委員（徳永洋介委員） ちょっと前に戻るんですけども、251ページですけども、文化芸術振興費についていいですか。251ページ。

○委員長（門田直樹委員） いいですよ。

○委員（徳永洋介委員） いいですか。負担金補助金のところで文化協会の補助金70万円。ここ数年で50万円になったり100万円になったり、今は70万円と。この補助金の決定についての基本的な考えがあれば、教えてください。

○委員長（門田直樹委員） 文化学習課長。

○文化学習課長（花田敏浩） 要望額としては、文化協会のほうから一定の金額の要望をいただいておりますけれども、市の財政状況等でその補助金額を決定させていただいておるといような状況でございます。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(門田直樹委員) 進みます。

それでは、252ページ、3目青少年対策費について質疑はございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(門田直樹委員) それでは、4目図書館費、次のページまでですが、次の次まで、よろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(門田直樹委員) それでは、同ページの5目公民館費、257ページまでですが、質疑はございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(門田直樹委員) それでは、256ページ、6目文化財整備費、ずっと行きまして261ページまでですが、6目について質疑はございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(門田直樹委員) それでは、7目文化財活用費について質疑はございませんか。  
長谷川委員。

○委員(長谷川公成委員) 7目の263ページですね、284の市民遺産育成関係費なんですけど、市民遺産は、まず1点目、今後も増やしていくのかというところをお尋ねいたします。

○委員長(門田直樹委員) 文化財課長。

○文化財課長(友添浩一) 市民遺産でございますが、平成22年度から現在まで15号の市民遺産を認定しております。今後につきましても、毎年1号以上の認定を目指して事業を推進してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長(門田直樹委員) 長谷川委員。

○委員(長谷川公成委員) 過去、補助金が企画書があれば出ていると思うんですが、現在そういった補助金は、これを見ると出ていないような感じなんですけど、ご説明をお願いします。

○委員長(門田直樹委員) 文化財課長。

○文化財課長(友添浩一) 各育成団体個々に対しての補助金というのが以前までございました。

平成28年度まで文化庁の補助事業で、団体をつかって申請いただければというような補助金がありましたので、そこまでは市を仲介させていただいて、国に直接補助申請をいただいたところがございます。現在はその補助事業が国のほうで終了というふうになっておりますことから、育成団体につきましては個々への市からの補助ということは今のところやっております。今ここにあります決算は、全体についての側面支援ということで、育成団体のパンフレットであるとか、市民遺産のフェスタであるとか、そういう支援を太宰府市本体のほうで実施をさせていただいているという状況でございます。

以上です。

○委員（長谷川公成委員） 分かりました。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかにございませんか。

小島委員。

○委員（小島真由美委員） 261ページの委託料、281の大宰府展示館の指定管理料、ここは令和ということで非常に来館数がかなり増えたということでもございました。そろそろもう人的にも落ち着いてきたところなんです、ここには新しく、元西日本新聞の記者だった方と、もう一人、市の職員の1人行っていると思うんですが、人員配置について、市役所の中でもやはり保育児童課であるとか全く足りないところが今もう頻発していて、人員配置の考え方について、ある程度落ち着いたところには職員を戻すとかという考え方を取り入れなくちゃいけないんじゃないかと思うんですが、この展示館に関してはどんな考えをお持ちなんですか。

○委員長（門田直樹委員） 文化財課長。

○文化財課長（友添浩一） 令和元年度までにつきましては、保存協会、外郭団体でございますが、事務局長と総務課長を兼務している職員がございました。令和2年度、今年度になりました事務局長と総務課長を分けさせていただいて、総務課長につきましては市の再任用職員を今充てている状況でございます。今後、保存協会、現在はなかなか入館者数が戻ってきていないという状況もございますので、今後の推移を見ながら調査研究してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかにございませんか。

木村委員。

○委員（木村彰人委員） 決算書263ページ、審査資料は21ページです。細目283の太宰府発見塾関係費についてお伺いします。

この事業は令和元年度に終了した事業ですね。しかしながら、この資料の参加者数の一覧表を見ると、これ16年間の実績ですけれども、改めて大盛況のうちにあっさりやめてしまったかなという感があるんですが、前回のご回答では、一旦やめますが、内容を検討して云々ということだったと思います。そこで、16年間積み重ねてきたこの太宰府発見塾の総括と検証及び再開に向けての検討の状況はいかがでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 文化財課長。

○文化財課長（友添浩一） 木村委員のほうから予算特別委員会の席でお問合せいただいた件でございます。現在、まず文化財課の中で、現在発見塾につきまして総括中でございます。総括の中で、発見塾の塾長、内部協議を経て方向性を見定めてまいりたいというふうに今思っているところでございます。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） よろしいでしょうか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、262ページ、8目文化財調査委費、267ページまでですね。質疑はございませんでしょうか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、同ページ、5項保健体育費、1目保健体育総務費、269ページまでですが、1目について質疑はありませんか。

笠利委員。

○委員（笠利 毅委員） 269ページ、131スポーツ推進費の19節のところ、一番下に全国大会出場補助金というのがあって、決算審査資料でも22ページに一覧が出ているかと思えますけれども、今日最初に聞いたことの別口ってここなんですけれども、全国大会出場に関しては、多分中学生に関しては四百何十万円か、ちょっと費目名は忘れちゃったけれども、別口で準備されていると思うんですね。2019年12月かな、一般質問で楠田市長が、筑陽学園のことが話題になったときに、本来的には教育費のほうで、全国大会へ出場するような学生さんとかそういう人たちの支援はしているという答弁があったかと思えます。

そこでまず、ちょっと素朴に思った疑問を聞くんですけども、資料の22ページの一覧表を見ると、多分個人単位での出場に対するあれだと思えますけれども、高校、大学のそれこそ部活動というものは、この費目の規則上、支出されないというような形になっているんでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） スポーツ課長。

○スポーツ課長（轟 貴之） こちらの補助金につきましては、内規におきまして、学校教育の一環で行われる大会、全国高等学校総合体育大会及びそれに準じる大会、いわゆる学生スポーツと称されるものの大会は補助の対象としておりません。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 笠利委員。

○委員（笠利 毅委員） ということは、先ほどちょっと言いましたけれども、中学校に関しては、市の中学校はもちろん中学校の経費の中で補助しているんだと思うんですけども、高校、大学の部活に関しては、本来は支援する手段を市としては持っていなかったというふうに理解してよろしいでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） スポーツ課長。

○スポーツ課長（轟 貴之） そうですね、高校、大学等に関する団体に関する補助等につきましては、今の現段階では、特段こちらのほうで準備できているものはないような状況でございます。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

笠利委員。

○委員（笠利 毅委員） ということは、本来こちらがメインで、筑陽学園へのクラウドファンディングはサブだったというのは、それ以外に方法もなかったんだというふうに理解して納得するのが妥当な線かなと思うんですけれども、それについてはいかがでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 市長。

○市長（楠田大蔵） 先ほどお答えしましたように、規定上、そういういわゆる甲子園などそういう大きな大会は、むしろこうした教育予算では出さないということであったと思います。

一方で、筑陽学園が甲子園に出た際など、かつて500万円の支援金がなされていたと。それはまた別途、この費目とは関係ない形で出ていたと思いますが、それに対してはやはり500万円は多額でもありますし、甲子園だけに支援するという形は、私は疑問をむしろ感じておりましたので、新たな形で、ふるさと納税を活用したクラウドファンディングでその支援金名目で捻出をすると。

一方で、甲子園のような名の通った大会はおかげさまで集まりましたけれども、やはり一般の様々な大会ではなかなかクラウドファンディング、その名目だけで提案しても集まらないという現実もあるかと思しますので、そこら辺うまく使い分けながら、いずれにしても市の大切な予算をできるだけ有効に活用していきたいと、歳出をできるだけ効率化していきたいという中で編み出した方策でありました。

○委員長（門田直樹委員） 笠利委員。

○委員（笠利 毅委員） この1年間の令和元年の経験の中で、いろいろなことが出てきたと思うので、2か所に分かれている形で質問せざるを得なかったことも一つの問題かとは思っているので、よりよい方法をつくっていただきたいと思います。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですね。

○委員（笠利 毅委員） はい。

○委員長（門田直樹委員） ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、268ページ、2目施設管理運営費、271ページまでですが、質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、270ページ、11款災害復旧費、1項、2項、273ページの5項までございますが、全体質疑はございませんか。

よろしいですか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、272ページ、12款公債費、275ページまで、1項1目、2目でございますが、質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）



をお借りしておりますので、会場自体の使用料は令和元年度もかかっておりません。こちらの何百円といたしますのは、会場を使用する際の空調関係、暖房とかの経費でお支払いしている部分をここから支出しているものでございます。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 原田委員。

○委員（原田久美子委員） 自治会においては、空調と施設料を一緒に取るではなく、空調費は別にされているところが多いと思いますけれども、これは34会場の何会場の分ですか、600円は。

○委員長（門田直樹委員） 経営企画課でそこまで分かるんですか。答えられる範囲でお願いします。

経営企画課長。

○経営企画課長（佐藤政吾） お答えします。実際にお支払いしましたのは、松川区、それから榎寺区、それから三条区でございます。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかに質疑漏れとしてはございますか、どなたか。

○委員（小島真由美委員） 質疑漏れでいいですか。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） すみません、2つあって、まず101ページなんですけれども、330財政調整基金なんですけれども、これは市の預金と言っていい話なんです、筑紫地区の基金の状況と、本市の基金の状況をちょっと比べさせていただきたいと思うんですが、周りの状況を教えてください。

○委員長（門田直樹委員） 経営企画課長。

○経営企画課長（佐藤政吾） 財政調整資金の筑紫地区の状況でございますが、申し訳ございません、令和元年度はまだどちらの市も決算議会中でございますので、平成30年度の数値を申し上げます。

まず、筑紫野市が19億円、それから春日市が約24億円、それから大野城市が48億円、那珂川市が16億円、それに対しまして平成30年度の太宰府市の金額が31億円でございます。これを比べますと、それぞれの人口や財政規模等を考慮いたしましても、太宰府市より多い市は1市しかございませんで、ほかの市は太宰府市より低い数値になっております。ただし、その低い市でも、基金全体といたしますか、公共施設整備資金関係等は太宰府市よりかなり基金の額が多いといたしますか、そういう状況になっております。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） そうですね、公共施設等の基金については、周りの市はしっかりと積

み上げているというところがあるので、その辺はまたしっかりと検討をお願いしたいと思います。

すみません、もう一点、161ページなんですけれども、013保育施設運営支援費の中で19負担金で届出保育施設の今回のコロナ禍の中での届出保育所に対する支援金という形で、衛生費という形で今回できましたけれども、県との衛生費との兼ね合いがあつて、なかなかちょっと自由度がないところでの、若干少し使い方もあったんですけれども、通常の支援という形で太宰府市が届出保育所に対する支援が全くない状況、全くというか、ほぼない状況なんですけど、これは各市、届出保育施設が待機児童に対するしっかりと市に貢献をしているという位置づけの中で、支援が今始まっているところなんですけど、この補助するようなことをしていただきたいと思つているんですけれども、この件に関して今検討内容とか何かあれば教えてください。

○委員長（門田直樹委員） 総務部長。

○総務部長（山浦剛志） 今おっしゃった届出保育所への支援でございますが、これから予算要求等始まってまいりますので、全体の中で今後そういったところも考えながら検討してまいりますと思っております。今のところ、ちょっとそれ以上申し上げられない状況でございます。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） すみません、筑紫地区の状況を教えてください。

○委員長（門田直樹委員） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（友田 浩） 筑紫地区の状況でございますが、現在、今委員ご指摘の分があつているところは、那珂川市、春日市、大野城市についてはということは把握はいたしております。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） ぜひこれはもう子育てしやすい町ということで、やはり若いお母さんたちは、太宰府市はちょっと、アプリなんかもよそはもうやっているけれどもとか、子育てするところでの若いお母さんたちに来ていただくためには、市税獲得もありますので、ぜひこの届出保育所に対する支援のほうをお願いいたします。

○委員長（門田直樹委員） もう質疑はよろしいでしょうか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、15時40分まで休憩します。

休憩 午後3時29分

~~~~~ ○ ~~~~~

再開 午後3時40分

○委員長（門田直樹委員） それでは、再開いたします。

歳入に入ります。

32ページ、1款市税から入ります。

1款について質疑はございませんか。

神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 市税についてですけれども、この令和元年度に令和効果で市税も少し上がるのではないかとということで、微増というような結果だとは思いますが、実際効果としてどのようなことがあったのかというのが明らかものがあれば、少し教えていただきたいと思えます。

○委員長（門田直樹委員） 税務課長。

○税務課長（森木清二） お答えいたします。

まず、市民税、個人分、それから法人分につきましては、若干の伸びがございます。まず、個人分で行きますと、均等割で0.9%の増、それから所得割で0.8%の増がございました。また、法人分につきましては均等割で1.3%の減、法人税割で4.2%の増等が結果として表れております。

それから、固定資産税につきましてはですけれども、土地、それから家屋、償却資産等についてそれぞれ伸びておりまして、固定資産税は2%の増が見込まれております。

あとは、軽自動車とか市町村たばこ税等につきましては特に影響はございません。考えられますのは市町村民税、それから固定資産税等の伸びが若干ではございますけれどもあったのではないかとこのように考えております。

それで、令和効果と直接結びつくかどうかというのは分かりませんが、太宰府市の名前が売れたということで、建築、建物の新築等も若干増えているような状況でございます。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかにございませんか。

船越委員。

○委員（船越隆之委員） たばこ税が1,400万円ぐらい上がっていますが、これは単純にたばこの値段が上がったというだけの問題ですかね。たばこを吸うな、吸うなということで、大分追い出されていますけれども、単純に金額が上がったというだけの問題ですかね。

○委員長（門田直樹委員） 税務課長。

○税務課長（森木清二） お答えいたします。

分析をしております、平成28年度から令和元年度4年間の平均でたばこの本数がどれぐらい増減しているかということを検証してまいりました。4年間の平均で大体4%程度本数的に減っておる状況でございます。それに加えて、たばこ税の増というのが平成30年度、昨年度はありませんでしたけれども、今年度もございますし、来年度までたばこ税が上がる予定でございます。まず一番考えられますのは、本数が減っておりますので、やはり値上げが一番大きな原因だということに考えております。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、次に34ページ、2款地方譲与税、ページが次の37ページまでですが、2款について質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、36ページ、3款利子割交付金について質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 4款配当割交付金について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 5款株式等譲渡所得割交付金について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 同ページ、6款地方消費税交付金について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 次のページですね、7款ゴルフ場利用税交付金について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 続きまして、8款自動車取得税交付金について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 同ページ、9款環境性能割交付金について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 10款地方特例交付金について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 同ページの11款地方交付税について、次の次までですが、質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、40ページの12款交通安全対策特別交付金について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 13款分担金及び負担金について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 42ページですが、14款使用料及び手数料について質疑はありませんか。

笠利委員。

○委員（笠利 毅委員） ページでいうと44ページ、45ページの商工使用料、先ほど言おうとしたところですが、観光使用料、太宰府館の使用料と自動販売機の設置使用料というところですね。予算に対して収入が8割ほどにしかなくなっているのが気になったところに、決算資料を要求されたものがあつたので見比べたんですけれども、利用人数というよりは、利用件数のほうに比例して減っているのかなという大ざっぱな印象を持ったものですから、先ほどの歳出のときの回答と重なるかもしれませんが、心配したのは若干の企画力の低下ということをお聞きしたものですから、今年度これを踏まえて、今現在どういう取組で力を入れているのか、V字回復じゃないですけれども、今年はVまではいかないかもしれませんが、どういう方向性で改善を図りたいと考えているかをお聞かせください。

○委員長（門田直樹委員） 観光推進課長。

○観光推進課長（池田哲也） 現在の状況をご説明したいと思います。

本年度はちょっとコロナ禍の影響もございまして、事業の組立てどおりにいってないようなのが状況でございます。これから状況が回復傾向が見えてきますと、また新たな事業展開を計画していきたいと思っておりますが、先ほども申し上げましたが、今のところ新規の目新しい事業というのは構築できてないような状況になります。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

○委員（笠利 毅委員） はい。

○委員長（門田直樹委員） ほかにございませんか。

神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 45ページ、土木使用料の3節住宅使用料のところなんですけれども、収入未済額が624万9,320円というふうになっているんですけれども、この内容についてお願いいたします。

○委員長（門田直樹委員） 管財課長。

○管財課長（柴田義則） こちらは市内に3棟ございます市営住宅の使用料でございます。例年こちらには現年分の調定と滞納繰越分とございますが、なかなか以前から支払われていた方が、様々な複合的な要因、就労だとか健康だとかその辺の状況によりまして、昨年度の決算としては少し厳しくなっている状況ではございます。その辺の状況も踏まえながら、今後とも督促といたしますか、やり方も含めて検討してまいりたいというふうに考えております。

○委員長（門田直樹委員） 神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 一番古い方で何年度分が残っているというようなことになっているのか。

○委員長（門田直樹委員） 管財課長。

○管財課長（柴田義則） 平成13年度からの積み残しという状況になっております。

○委員長（門田直樹委員） いいですか。

ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、50ページ、15款国庫支出金、50ページから、ちょっと長いけれども63ページまでですね。15款につきまして質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、62ページ、16款県支出金、75ページまでですね。16款につきまして質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、74ページの17款財産収入、次の77ページまでですが、質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、76ページの18款寄附金について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、同ページ、19款繰入金、79ページまでですが、19款について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、20款繰越金について質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 同ページの21款諸収入、81ページまでですが、質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 同ページの22款市債、ずっと行きまして85ページまでですが、質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、歳入全般についての質疑を行います。そして、歳入の審査を終わりたいと思います。

歳入全般についての質疑はありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） それでは、歳入歳出両方の全般についての質疑を終わりにして、276ページ、実質収支に関する調書に入ります。

質疑はありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 次に、391ページ、財産に関する調書に入ります。

392ページから415ページまでについて質疑はありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(門田直樹委員) それでは、次に417ページ、基金の運用状況調書に入ります。
418ページから419ページまで質疑はありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(門田直樹委員) これで質疑を終わります。
それでは、再度歳入歳出全般について総括的な質疑はありませんか。
小島委員。

○委員(小島真由美委員) それでは、事務報告書から質問をさせていただきます。
まず8ページで、性質別歳出の決算の一覧表をいただきました。義務的経費は前年度に比べて平成30年で4億1,800万円余り増で、また今回は4億6,000万円余り増ですかね。4億円、5億円のペースで増をしていきながら、積立基金は微増というか、そんなに減ったり増えたりみたいな形で動きがないんですけれども、この義務的経費の増え方の推移について見解をお聞かせいただきたいのと、もう一つ、次のページの10ページの経常収支比率がこの10年間で94.1%とかなり跳ね上がっていて、この説明があまりにもあっさりし過ぎて、ちょっとよく全体的に分からないので、ここも含めて経常収支比率とこの義務的経費についてご説明ください。

○委員長(門田直樹委員) 経営企画課長。

○経営企画課長(佐藤政吾) まず、義務的経費に関する経費でございます。8ページの下の性質別決算の推移を見ていただきましたら、下から2つ目の扶助費が年々増加が続いているような状況でございます。それから、特に令和元年度からは、この扶助費の中で幼児教育・保育無償化によりまして保育委託料や幼稚園等の利用給付費が増加したこと、それから児童扶養手当の法改正により支給額が増加したこと、そういったことが影響いたしまして、扶助費が伸びている状況でございます。

これは太宰府市だけに限るような状況ではないんですけれども、今後もこの扶助費の増加は予想されるところでございますので、ますます義務的経費は今後も増えていくのではないかなと考えているところでございます。

それから、10ページの経常収支比率でございます。経常収支比率は、分母が経常一般財源等の収入、それから分子のほうが経常経費充当しています一般財源という比率になりまして、前年度に比べまして2.8ポイント増加いたしております。こちらにつきましても、補助費等で、例えば先ほどの幼児無償化の状況、それからあと南部清掃工場の起債関係の増加等が影響しております、2.8ポイント上がってしまいました。

今後もこの傾向は続くのではないかなと予測しておりますが、こちらもある程度ほかの類似団体も県平均も、まだ令和元年度はちょっと数値が出てないんですけれども、ある程度上がっているのではないかなと今予測しているところでございます。

以上です。

○委員(小島真由美委員) はい、分かりました。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかにございませんか。

笠利委員。

○委員（笠利 毅委員） 今回のページをお開きだったらそのままでいいんですけども、8ページでも書いてあることなんで。審査意見書のほうから直接には疑問を持ったので、お尋ねします。

審査意見書の49ページに、監査からの審査意見として、物件費の増加というものが投資的経費の増額につながったという指摘がありました。先ほども報告書の8ページにも同じことが事務局のほうから出ていますけれども、その中で小・中学校 I C T の推進費というものが増額の理由として上げられているんですけども、決算書の中では小・中学校別々ですし、決算書の中からは小・中学校 I C T の推進費の全体像というのがぱっとは分からないんですね。

他方、この年の予算の説明の段階では、説明資料の中で学校 I C T 推進整備事業という形で、ほぼイコールだと思われるものが主な事業として総額で2,053万7,000円提示されていました。

そこで質問なんですけれども、ここで指摘されている小・中学校 I C T の推進費というふうに言われているものは、若干名称が違うんですけども、予算説明の段階で行われた学校 I C T 環境整備事業とイコールなのかということと、あと増額の理由として上げられるぐらいですから、当初の予定をはるかに上回るような額が全体として出たのかどうか、その点をちょっとお聞きしたいと思います。

○委員長（門田直樹委員） ちょっと笠利委員、総括的な質問というよりも、何か質疑漏れみたいな感じなのかな。

○委員（笠利 毅委員） いや、ここでしか聞けないと思っていたので、すみません。それは申し訳ない。

○委員長（門田直樹委員） 対応ができれば、よろしいですか。

学校教育課長。

○学校教育課長（鳥飼 太） お答えいたします。

具体的な数値を、すみません、現在持ち合わせておりませんが、今年度 G I G A スクールの推進ということで、1人1台という構想が出されまして、急遽かなりの予算額を配当していただいた状況でございます。学校の I C T 推進関係費ということで、今年度様々含めまして大体6億円ぐらいの規模になっているかと承知しております。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

笠利委員。

○委員（笠利 毅委員） 今年度ではなくて、平成31年度、つまり令和元年度についてどうだったのかという質問なんですけれども。

○委員長（門田直樹委員） 総務部長。

○総務部長（山浦剛志） 今のご質問の件につきましては、こちらのほうで改めて調べまして、また明日にでも回答させていただきます。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

○委員（笠利 毅委員） はい。

○委員長（門田直樹委員） ほかにございませんか。

小島委員。

○委員（小島真由美委員） 決算審査意見書の33ページ、34ページで、25番の積立金がちょっと減っている、全体的には減っている、一覧表で見ると、比較表で見ると減っているんですけども、その内容を33ページで見ると、これ民生費の分がなかったとしてもちょっと少ないかと思うんですが、この積立費についての要因を教えてください。

民生費の分がなかったとしても少ないと思うんですが、その要因を教えてください。

○委員長（門田直樹委員） 経営企画課長。

○経営企画課長（佐藤政吾） 積立金に関しましては、平成30年度と令和元年度を比べまして、約1億3,000万円ほど減額になっているかと思いますが、財政調整資金の積立金関係だけで約マイナス1億6,000万円ほどありまして、そのマイナスが一番影響しているかと思いますが。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

小島委員。

○委員（小島真由美委員） それは分かるんですね。その要因が結局扶助費が増えたからとかということであれば、例年そうなるのかということとをさっき質問したつもりだったんですが。

○委員長（門田直樹委員） 総務部長。

○総務部長（山浦剛志） この基金の積立てでございますが、主に本市では前年度の剰余金を原資に大体積立てをやってきているというのが現状でございます。したがって、前年度の剰余金が少なくなればなるほど、今現在のところ積み立てる額というのもおのずとやはり少なくなってくるのかなというふうに考えております。本来であれば、当初の予算を組む際に一定の額を積み立てますというふうなことで予算化できればいいんですけども、なかなか本市の財政状況を考えると、それが収支がなかなかそれをやると一致しないというところがございます。今のところ最終的に剰余金がどれだけ出たかで、この積立ての額が決まってくるというふうな状況になっております。

以上でございます。

○委員長（門田直樹委員） 小島委員。

○委員（小島真由美委員） そこが問題で、せっかく市長もふるさと納税等、クラウドファンディング等でかなり大きな大胆な改革もされ始めているところなので、最初に若干やっばり見積な

がらやらないと、剰余金頼みでやっていたら、もうこれ全く駄目ですよ。その辺の検討をお願いしたいということをお願いをしたいんですが。

○委員長（門田直樹委員） 市長。

○市長（楠田大蔵） ありがとうございます。おっしゃるように結果として、私も2年半余りになりますけれども、剰余金などの結果として積立金が決まっていたり、また先ほどの経常収支比率が結果として高くなってしまったりということ、それではやはりいけないと思っております。予算を組む際に、どれほどの積立てをしていくのか、そして経常収支比率をできるだけ下げていくのかとか、そういう目標を決めながら予算を組んでいくべきだろうということは、改めて問題意識として持っております。

担当もなかなか四苦八苦しながらやってくれていますので、そうしたことももう一度検討しながら、よりよい予算に来年度していければと思っております。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかにございませんか。

木村委員。

○委員（木村彰人委員） 結局一般会計としては5億7,993万円の黒字決算ということなんですけれども、これどこでお聞きしようか非常に迷ったんですけれども、本市だけじゃなくて、日本全国取り巻く状況がごろっと変わりまして、連続性がなくなっている中で、この決算だけを見るんじゃなくて、ちょっと先を見据えたところで、これ予算の段階になったらもう時期を逸していますので、あえてここでお聞きしたいと思うんですけれども、この監査委員の審査意見書の中の結びのところですね、私ここを読ませてもらったんですけれども、決算に関することはほとんど書いてないですね。先のことを危惧することが書いてありまして、今後の税収の大幅な減が見込まれ、市の財政は危機的状況に陥るものと危惧されるというところですね。あと、今後非常に難しい行財政経営を強いられるというところで、監査委員の方は心配していらっしゃると思います。

私もそれが非常に気になるところで、もちろんこの令和元年度の決算は決算でしっかり押さえたところで、あえて今お聞きしますけれども、これ令和3年度の予算に向けてのこの令和元年度の決算が連続性を持たないと思います。特に歳入の部分、かなり激減すると思いますけれども、その内容についてはここでは聞くものではありませんけれども、この検討の状況と、なるべく早く我々にもその備え、税収が落ちるといふことの備え、その代わりにどうするかということをご説明いただきたいと思うんですけれども、そこら辺についてはここで聞くものでしょうか。

○委員長（門田直樹委員） 市長。

○市長（楠田大蔵） せっかくの機会ですので。

まさに新型コロナウイルスの影響で、令和元年度までの予算決算とは全く異なる状況になることが推測をされております。税収がどれほど減るかということも、ある程度の見積りも立て

つつありますし、経営方針、また予算編成方針も間もなく発出をいたしますので、そうした中で可能な限り議会の皆様にもできるだけ早くご説明をしていきたいと思っておりますが、先ほども申しましたように、やはり新型コロナウイルス対策のためにもできるだけスピーディーに、できるだけ対策を行うということで、来年の積立てなどもなかなか難しいところもございますが、今まではやはり私自身、歳入をいかに増やしていくかということの中で、市税なりふるさと納税なり着実に昨年度までは増えてきておりますので、今後は特に新型コロナウイルスの影響も一つのきっかけとしまして、歳出をいかに効率化していくか、行政改革をいかに進めていくか、この点が来年度の課題になろうかと思っております。そうした計画的な財政運営を行う一つのきっかけに、新型コロナウイルスの影響をむしろ生かしていくと、そうした観点でやっていきたいと思っておりますので、漠然としておりますけれども、そうした問題意識を持ってやっていきたいと思っております。

以上です。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

木村委員。

○委員（木村彰人委員） まず、分かる限りでの想定をしっかりと詰めていただいて、どのくらい歳入のほう落ちるかというのをまず把握したところで、それを市のほうで補えないのであれば、早めに、それこそ県を通して国に対する要望というのをしっかりとしていかなければ、非常に不安だと思います。そこら辺しっかりとお願いしたいと思っております。要望です。

○委員長（門田直樹委員） 市長。

○市長（楠田大蔵） もともと新型コロナウイルスの影響がある前から、五味さんも環境省から入ってもらいましたので、本年度、来年度に向けて様々な陳情関係を強化しようと思って準備を重ねていたのですが、なかなか状況ができない状況の中で、まだできていないところもありますが、特に来年度は全国的に税収が減る中で、国のほうもない袖は振れないのかもしれませんが、どれだけ地方の声を国に入れていくことができるかによって、かなりその手当てが変わってくると予測されますので、我々も先頭に立って、国なり県にしっかりと積極的に要望をしてまいりたいと思っております。

○委員長（門田直樹委員） よろしいですか。

ほかにごありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 以上で質疑を終わります。

意見交換を行いたいと思っておりますが、ご意見ごありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） これから討論を行います。

討論はありませんか。

笠利委員。

○委員（笠利 毅委員） 賛成の立場で討論します。

全般的な感想だけ言って討論に代えますけれども、今回、予算と補正予算と予算説明資料と前の年の決算とを参考にしながら見させていただきました。率直に言って、全体的にはあらかじめ立てた計画に沿うような形で努力した跡は見てとっていいなと思っています。

注文というか、少しだけ不満に思ったところがあるので、そこだけ指摘しておきたいと思います。先ほど最後に言ったところと関わるんですけども、この年の予算は選択と集中を経てつくられて、それに基づく実践と構想の決算という位置づけのはずなんですね。この1年間の重点が置かれた事業というのは、先ほど言いましたように、7つのプランに基づく形で分類されて、今までの総合計画の中で分類されていたものとは別分類で、事業を力を入れてやってきたんだと私は理解しておりました。実際そのような形になっていたと思います。

ところが、決算の段階で私たちが得ることができた資料というのは、旧来の総合計画に基づいた分類による施策評価ですね。以前であれば、その施策評価と主な事業に対する評価というものが内部評価がほぼ重なるような形で提示されたので、それほどの違和感がなかったんですけども、今回は重点を置いた事業がそのまま施策評価に反映されるという形になっていなかったと私は見えています。率直に言って、内部による施策評価というものが、前年度の施策評価に比べて熱が籠もっていない書き方であったと。これは印象で申し上げて申し訳ありませんが、率直にそう感じました。

ですので、今は外部評価というものの在り方を再検討中ということで、しばらくずっといろいろな場で答弁が繰り返されていますけれども、今年がとにかく大変な状況ですから、この1年間、前年度に皆さんが努力してこられた重点的な事業というものをしっかり内部で評価し直して、それを表に出して、自らを鼓舞しつつ来年度に向かうという形が必要なのではないかと感じています。

これを意見として、討論に代えたいと思います。

○委員長（門田直樹委員） 反対討論はございますか。

神武副委員長。

○副委員長（神武 綾委員） 反対の立場で討論いたします。

予算審査時に、消費税が増税されることによって様々な施設使用料など市民への負担が増えるということ、それから同和対策事業費が変わらずの計上がされているというところでの反対をしておりました。

この令和元年度、新元号が制定されたことによって様々、本当、太宰府の市内、そして職員の方々も思いがけない出来事で、試行錯誤されながら行政を進めてこられたと思います。そして、年度末にはコロナの感染拡大というところでの対応ですね。本当に1年間、目まぐるしかったと思いますけれども、消費税が負担が増えたことと併せて、コロナでの影響、生活への影響も出てきていますので、その点の施策をしっかりと進めていただきたいというふうに思います。

様々提案もさせていただきました。いつも同和対策事業費について反対をさせていただいて
いますけれども、このコロナ禍の中で、本当に厳しい方が増えているというところは実感して
いるところですので、一部の地域住民の方だけに補助するだけではなくて、市民全体、平等に
関わるような施策を来年度予算編成のときに考えていただきたいということをお願いいたしま
す。

もう一点、決算審査意見書の中に、先ほど木村委員もおっしゃいました結びのところに、公
共施設の再編については、採算性と収益性を念頭に置いた効率的な整備計画が必要だというふ
うなことも書いてあります。これまでとびうめアリーナができて、体育館はどうしていくのか
というような話も建設時には議論がされましたけれども、その後がなかなか進まないというよ
うな状況があると思います。来年度税収が減るのではないかというふうなことは、もう市民の
皆さんも心配をしているところですので、そういう面を含めて公共施設の問題は早急にかかっ
ていただきたいというふうに思います。このことを要望いたしまして、反対討論といたしま
す。

○委員長（門田直樹委員） 賛成討論はございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 討論はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） これで討論を終わります。

採決を行います。

認定第1号「令和元年度太宰府市一般会計歳入歳出決算認定について」、認定することに賛
成の方は挙手願います。

（多数挙手）

○委員長（門田直樹委員） 多数挙手であります。

よって、認定第1号については認定すべきものと決定しました。

〈認定 賛成15名、反対2名 午後4時18分〉

○委員長（門田直樹委員） 以上、本会議において報告します。

お諮りします。

本日はここまでとしたいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（門田直樹委員） 異議なしと認め、本日の審査を終了します。

次の委員会は、9月15日午前10時から再開いたします。

~~~~~ ○ ~~~~~

○委員長（門田直樹委員） 本日はこれにて散会いたします。

散会 午後4時18分

~~~~~ ○ ~~~~~